

上海交通大学

SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY

学士学位论文

THESIS OF BACHELOR



论文题目：日本流行歌曲歌词中的“当て字”现象的研究
——从计算语言学视角

学生姓名：姚诗婕

学生学号：5131429008

专 业：日语

指导教师：河崎みゆき

学院(系)：外国语学院

上海交通大学

SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY

THESIS OF BACHELOR



TITLE:

A STUDY ABOUT ATEJI IN JAPANESE POPULAR SONG LYRICS:

FROM A PERSPECTIVE OF COMPUTATIONAL LINGUISTICS

Name: Shijie Yao

Student ID: 5131429008

Major: Japanese

Supervisor: Miyuki Kawasaki

Department: School of Foreign Languages



上海交通大學
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY

上海交通大學

SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY

学士学位請求論文



テーマ: 日本語流語行歌の歌詞の当て字について
- 計算言語学の視角より -

氏 名: 姚詩婕

学籍番号: 5131429008

学 科: 日本語

指導教師: 河崎みゆき

学 院: 外国語学院

日语流行歌曲中的“当て字”现象的研究

——从计算语言学视角

摘要

“当て字”现象是日语流行歌曲歌词中的一大特殊现象，它指的是在歌词词汇（母文字）上标注与其实际发音并不相符的发音（注音文字），并歌唱其新的发音。“当て字”现象的本质是一种值得玩味和研究的艺术手法，本文通过计算语言学视角，采用计量研究的方法，结合实例分析，对通过歌词网站 UtaTen 收集而来的计 14,981 个“当て字”进行词性、拍数、出现频数、修辞运用等方面的特征总结，同时挖掘了“当て字”与作词家性别、各时代经济发展情况间可能存在的关系与联系。结果发现，名词作为“当て字”出现的比例极高，3 拍的母文字和 2 拍的注音文字的出现比例较高，比喻、缘语和同义等修辞法被频繁使用。此外，男女作词家在“当て字”的使用频率上未表现出明显差别。“当て字”的多样性随着日本社会经济的繁荣而提高，萧条而降低，其多样性在 20 世纪 60 年代至 20 世纪 90 年代日本经济高速发展时期尤为显著。

第一章对选择“当て字”作为研究对象的理由和歌词中“当て字”现象的背景进行说明。第二章对“当て字”进行定义，同时解释“義訓”、“添義法”等相关概念，介绍本研究中使用的 MeCab 工具。第三章详细说明处理“当て字”数据的方法。第四章对“当て字”进行词性、拍数、修辞法、作词家性别、日本经济情况等各特征和方面的具体分析。第五章在总结“当て字”特征规律的基础上，探究在歌词中使用“当て字”的原因，并试图从历史发展的观点看待当代的“当て字”。第六章总结全文要点，指出不足之处，提出今后的改进和研究方向。

关键词： 当て字，日语流行歌曲，计算语言学，修辞法，MeCab

A STUDY ABOUT ATEJI IN JAPANESE POPULAR SONG LYRICS: FROM A PERSPECTIVE OF COMPUTATIONAL LINGUISTICS

ABSTRACT

“*Ateji*”, a unique language phenomenon in Japanese popular song lyrics, means the combination of two words into one through a reading gloss, which usually consists of a pair of *kanji* (Chinese characters) with *rubi* (as a reading gloss) that has different pronunciation or different meanings. This paper collects 14,981 pairs of *ateji* from UtaTen, a song lyric site, and analyse them from aspects of part of speech, number of *haku* (the Japanese syllable), frequency, rhetoric, gender of lyricist and Japan’s economic status through quantitative analysis. As a result, we found that there is a high frequency of nouns as *ateji*, of 3-*haku kanji* and 2-*haku rubi* and frequent uses of simile (or metaphor), *engo* (a Japanese tradition rhetoric which is made of up two words of semantic similarity) and synonymy. Besides, there is no salient relation between diversity of *ateji* and gender of lyricist. However, diversity of *ateji* increases in proportion to Japan’s economic status, especially during from 1960s to 1990s, which is called the years of advanced economic development.

In Chapter One, we explain the reason of studying about *ateji* and the background of *ateji* in song lyrics. In Chapter Two, we give definition to *ateji* and introduce related concepts and introduce the tool MeCab used in this paper. In Chapter Three, we explain the methods of processing *ateji* data with details. In Chapter Four, we analyse *ateji* according to the above-mentioned aspects. In Chapter Five, based on the conclusion of features of *ateji*, we explore the possible reasons of using *ateji* in song lyrics and discover it with a historical development perspective. In Chapter Six, we conclude the main points and point out disadvantages for reference of future research direction.

Key words: *Ateji*, Japanese popular songs, computational linguistics, rhetoric, MeCab

日本語流行歌の歌詞の当て字について

—計算言語学の視角より—

要旨

本研究は、日本の流行歌の歌詞に登場する「当て字」を対象に、計算言語学の視角より、計量分析の方法で、歌詞サイト UtaTen よりプログラミング方法を通して、大量に集めた当て字の言葉の品詞の特徴や出現頻度、拍数、作詞家の性別と社会経済状況との関係を探った。結果として、歌詞の当て字における名詞の多用や、3拍の親文字と2拍のルビの多用、修辞法として比喻や縁語、同義の技法の多用がわかった。それから、男性作詞家と女性作詞家は当て字の使用に大きな違いを表していないようである。さらに、高度経済成長期、安定成長期及びアベノミクス実施といった日本の社会経済が盛んな時代に、当て字も様々な姿でその多様性を示している。

第1章では、当て字を対象とした理由や、歌詞の当て字の研究背景を説明する。第2章では、当て字の定義を吟味し、義訓、添義法との関わりと、当て字ペア等本論での用語及び研究で使ったツール (MeCab) を紹介した。第3章では、詳しく当て字データの処理の方法等を説明する。第4章では、当て字のデータを分析し、特徴ごとに示す。具体的には、品詞、拍数、修辞法、作詞家の性別と歌のリリース年代の日本の経済状況といった側面から分析を行う。第5章では、当て字の特徴と傾向をまとめた上で、当て字の使用の原因を究め、当て字の歴史上の位置付けを試みた。第6章はおわりとして本研究の要点をまとめ、本研究の不足点を指摘した上で、今後の研究方向や改善方法を考える。

キーワード：当て字・日本の流行歌・計算言語学・修辞法・MeCab



目次

第1章	はじめに	1
1.1	問題提起	1
1.2	先行研究	1
1.3	研究の目的・方法・範囲・意義	2
第2章	当て字とは	4
2.1	「当て字」、「義訓」と「添義法」	4
2.2	「修辞」、和歌の修辞	4
2.3	日本語流行歌の歌詞の「当て字」と「当て字ペア」	5
2.4	「メタデータ」と日本語流行歌のメタデータ	5
2.5	MeCab	5
第3章	当て字データ処理の作業手順	7
3.1	当て字ペアと歌のメタデータの抽出と記入	7
3.2	当て字ペアのデータ処理	7
3.3	メタデータの処理	10
3.3.1	作詞家	10
3.3.2	曲名	11
3.4	本章のまとめ	11
第4章	当て字のデータ	12
4.1	頻度トップ15の親文字、ルビと当て字ペア及び修辞法	12
4.2	品詞	33
4.3	拍数	39
4.4	表記及び使用言語	46
4.5	作詞家の性別	48
4.6	リリース年代と社会経済状況	48
4.7	本章のまとめ	50
第5章	当て字に関する考察	51
5.1	当て字の言葉の特徴とレトリック効果	51
5.2	当て字のメタデータ	52
5.3	当て字の共通性と個性	52
5.4	当て字の使用の可能な原因	52
5.5	歴史的観点から見た現代歌詞の当て字	53
5.6	本章のまとめ	54
第6章	おわりに	55
	参考文献	56
	謝辞	57
	図表の目録	58

第1章 はじめに

1.1 問題提起

コスモス
「うす紅の秋桜が秋の日の
何気ない陽溜りに揺れている」

（「秋桜」）

日本の流行歌を聴く際、歌い出される言葉と実際歌詞に書いてある言葉とずれがあることがよくある。書き出しの山口百恵が歌唱するヒット曲の『秋桜』がその一例である。歌詞には「秋桜」とあるが、耳にするのは「コスモス」である。有名人の山口百恵がまさか言葉を間違えて読んだのではないかと思った。「コスモス」を辞書で引くと、確かに「秋桜」という花を指す場合にも使える。

他の歌を聞けば聞くほど、歌詞にはこのような現象が沢山登場することに気づいた。例えば、歌詞には「季節」とか「運命」と書いてあるのに、それぞれ「とき」とか「さだめ」と歌うのだ。歌詞の言葉にその言葉の発音を表すふりがなを振ることが普通である。しかし、ルビ付きの歌詞のサイト UtaTen^[1]で観察した結果、歌詞の言葉にその言葉の発音と違うルビが付いている現象が多々見られるのである。

歌詞の中に表された文字表記と別の発音で歌われることを、日本人の間で一般に「当て字」と呼ばれる。大量の観察とデータ収集に基づき、筆者は、日本の流行歌の歌詞の当て字のおびただしさと多様性ということに気づいた。歌詞の言葉とその当て字には、日本語のみならず、中国語、英語、ドイツ語、フランス語などの言葉がカタカナ化された外来語として、あるいはその言語の元の言葉のままで直接に使われている。名詞を始め、動詞、形容詞、文単位まで、歌詞の言葉とその当て字には多様な品詞も見える。また、作詞家によって、当て字の使用も異なる傾向を表しているようである。本研究は、1957年より2017年にかけて歌詞サイト UtaTen に収集された日本語流行歌の当て字（詳細な定義は第2章で参照）を大量に収集し、当て字の親文字とルビの言葉の特徴や、当て字と歌のメタデータ（作詞家の性別、年代別日本の経済状況等）の関係と変化を明らかにする。

1.2 先行研究

日本の流行歌の歌詞の当て字についての研究は、管見の限り、二本しか見つからない。江藤（2013）の研究と杉山（2008）の研究で、両方とも大学生の卒論で、インターネットでは全文公開されておらず、テーマあるいは要旨しか入手できない。分かる範囲で見ると、江藤（2013）では、日本 J-POP の歌詞の当て字を対象に研究していることがわかる。杉山（2012）の研究要旨を通じ、杉山（2008）は1968年から2007年にかけての日本オリコン年間ランキング、シングル・ベスト20の800曲を対象に、歌詞の当て字の出現数と日本経済の発展に正比例の関係があること、及び表記的当て字の数量は音声的当て字の数量に反比例の関係があることを指摘している。

歌詞の他にも、当て字が登場する媒体がある。白勢（2012）、Lewis（2010）は日本の漫画を対象に、それぞれ当て字の分類を行い、当て字の働きを分析した。白勢（2012）はいわゆる「ファンタジー」と言われるジャンルの漫画に出た当て字を「口語の読みを表す

[1] UtaTen：無料歌詞検索サイト <http://www.utaten.com>

もの」、「外来語の読みを表すもの」、「代名詞」、「言い換え表現」など七つの使い方に分類できた。Lewis (2010) は当て字を働きにより、translative (口語を言い換え解釈的)、denotive (指示的)、contrastive (対比的) などと分類した上で、当て字が漫画のシナリオの進行やキャラクターの描写に大事な働きをしていると指摘している。

これまでの日本の流行歌の歌詞に関する研究のほとんどは、大出・松本・金子 (2013)、小林・狩野・鈴木 (2013) のような歌詞の言葉をめぐる計量分析である。研究対象の選択に関して、平山 (2009)、金城 (2013)、富永 (2015) はある特定の歌手あるいは特定のポップグループの歌の歌詞を対象に分析している。その中で、本文が手に入れた富永

(2015) の研究は J-POP グループ「いきものがかり」の主な作詞家である水野良樹と山下穂尊の使用語彙を対象に、両者には共通点と相違点があることを指摘している。鈴木・山口 (2000)、細谷・鈴木 (2010) 及び小林・狩野・鈴木 (2013) はオリコンの年間ランキングのシングル・ベストの曲について調査した。本文が入手できた細谷・鈴木 (2010) は女性シンガーソングライター10名 116曲の歌詞を計量分析し、恋愛が主なトピックであること、及びそれぞれスタイルが違っていることがわかっている。研究の角度もいろいろある。大出・松本・金子 (2013) は、社会的背景の要因を考えて歌詞の分析を行い、1990年代後半から 2000年代にかけてネガティブな内容からポジティブな内容への変化が見られ、1997年が変化の境界になっているのが失業率の上昇や凶悪犯罪の影響を受けたためであろうと指摘している。小林・狩野・鈴木 (2013) も女性グループの曲を対象に、歌詞の特徴を社会背景と結ぶことを試みた結果、それぞれの歌手に違いがあり、また各年代にも違いがあり、時代ごとに異なることを示したことがわかっている。Nyman (2012) は、社会言語学の言語接触の角度から、日本の流行歌の歌詞の英語の部分について検討し、英語が日本の流行歌の歌詞の大事な部分で、重要な働きをしていると言っている。

さらに、文学作品としての歌詞に関する研究もある。川畑 (2012) の研究によって、ロックバンドのBUMP OF CHICKENの歌詞を文学的視点から、宮沢賢治の文学作品を比較対象とし、スタイルには共通点があることがわかっている。さらに、歌詞には、様々な修辞技法が使われている。様々な修辞法で言葉を効果的に使って、作品のテーマや内容などが美しく、適切に表現できる (黄, 2012) と指摘しており、歌詞にも比喩、比擬、反復、体言止め、省略、誇張、列叙、対照といった修辞法が使われていると指摘している。

以上の先行研究から、歌詞の研究は文学研究の対象のみならず、計量言語学、社会学と社会言語学など多くの分野の研究対象になっている。広義から言えば文学作品の一種としての歌詞は、文学研究の壁を乗り越え、計量言語学や社会言語学の研究者の目に入っている。計量の方法を通じて、特定の歌手やポップグループの歌を対象とした小範囲の分析ができるほか、数量的にも、作詞家的にも、または年代的にも広範囲で歌詞の変化と傾向もわかってくるであろう。歌詞を社会と結びつけることにより、歌詞に潜んでいる深い時代の意味や、作詞家の特別な意図などを掘り出すことも可能になろう。本研究は、当て字の特徴や変化をより正確に掴めるために、データ数を拡大し、先行研究を踏まえ、計量テキスト分析の方法で、言葉の品詞、出現頻度、修辞法などの角度から特徴をまとめ、作詞家の性別や歌のリリース年代の日本の経済状況の関係や影響の有無などを明らかにする。

1.3 研究の目的・方法・範囲・意義

本研究の目的は、日本の流行歌の歌詞の当て字を解析することで、漢語 X を書くために、漢語 Y を書く場合に使う文字列を当てることがありえなく (今野, 2013)、漢字の読み方をこのように複雑に表記する現象がない中国語話者にとって、この不思議な現象の全

貌、及び背後にある意味を明らかにすることである。また、当て字を日本の流行歌の大事かつ特別な特徴として指摘したい。

本研究は UtaTen という歌詞サイトを用い、歌詞の「当て字」を収集した。UtaTen は日本の歌の歌詞検索サイトである。UtaTen を利用した理由は二つある。一、UtaTen に収録された曲には、曲名、歌手名、作詞家、作曲家、年代などといった情報が揃っているため、歌詞とそれらとの関係が研究できる。二、UtaTen の最大の特徴として、下の図 1 で示したように、ルビ付きの歌詞が示されているため、筆者は歌詞のウェブページの HTML 文書構造を分析した上で、当て字抽出のプログラムと当て字記入のプログラムを組むことができるからである。

本研究で扱う当て字は、2017 年 3 月 16 日に UtaTen において、1967 年から 2017 年 3 月まで四十年間リリースされた全曲 42,785 首の歌から抽出したもので、計 14,981 個見つかった。大量の当て字データにより、全面的かつ全般的な分析ができると考えられる。

当て字の分析には、計量言語学で使う計量テキスト分析の方法を用いる。計量言語学といえば、統計的な方法を持ちいて言語や言語行動の量的側面を研究する学問分野（伊藤, 2002, p.1）である。これまでに、語彙調査の結果に基づいて言語の量的構造を解明したり、文体統計の手法を使って、ある小説家の文体的特徴を明らかにしたり、また、社会言語学的立場から人々の言語使用の実態、つまり言語生活や言語行動を統計的手法で解明していく、などの研究がある（伊藤, 2002, p.4）。本研究は計量的方法を通じ、当て字の言葉の特徴や経済の要因との関係などを解明していく。

本研究はこれまでの日本の流行歌の歌詞の当て字分析と比べると、データの数量においては数十倍の拡大、加えてデータ分析の視点においては新しい切り口の開拓、すなわち、当て字の言葉の具体的特徴や傾向、修辞手法などに注目するという点と、当て字と歌の作詞家とリリース年代の関係に注目するという点では、独自の研究になると言えよう。杉山（2012）、大出、松本&金子（2013）、小林、狩野&鈴木（2013）、鈴木&山口（2000）、細谷&鈴木（2010）、富永（2015）はそれぞれ 800 首、344 首、439 首、1000 首、116 首、88 首の歌を研究対象としているのみである。本研究はデータボリュームを拡大し、42,785 首の歌を対象とした本研究、より全般的に当て字の特徴が見えるのではないかと思われる。分析の視点からいえば、杉山（2012）は主に当て字の数量と社会の経済状況の関係を注目している。本研究は、当て字の言葉そのものを分析した上で、社会言語学の性別や、年代といった要素を考えながら歌詞の当て字を分析する。よって、本研究は歌詞の当て字の研究を通じ、日本語の特徴や日本歌文化への理解の深まりに貢献できる。また将来、漫画などのテキストの電子化やウェブ化の一層の発展に伴い、他種類のテキストを用いた当て字の計量分析も可能になることが期待できる。

あなた もと こんや
酸素を求めて 今夜もアクアリウムへ
うみいろ しんじゅ かざ
海色 ドレスと 真珠 のピアスで飾って

図 1 UtaTen のルビ付きの歌詞例（「エンジェルフィッシュ」）

第2章 「当て字」とは

2.1 「当て字」、「義訓」と「添義法」

従来、「当て字」に関しては、いろいろな辞書により定義されている。『日本国語大辞典』では、「当て字」というものを、漢字本来の意味に関係なく、その音、訓だけを借りて、ある語の表記に当てる漢字の用法、と定義している。例として、「あさまし」に「浅増」をつける、「めでたし」に「目出度」を、「やはり」に「矢張」をつけること、などが挙げられている。『日本国語大辞典』の定義を基に、『広辞林』は熟字訓を表す漢字も当て字と認めるべきだと補足している。例えば、「ささやき」に「私語」、「みやげ」に「土産」などである。さらに、『三省堂大辞林』は、当てられた語の表記法として慣用されているもののみ当て字と見なせるとの規定を加えた。

以上の定義の共通点を見れば、従来の「当て字」の特徴には二つある。第一、和語が先で、漢字が表音文字として和語につけられた、即ち、あさまし浅増のような形である。第二、和語と当て字の漢語の意味は等しい、換言すれば、当て字としての漢語が和語と等しい意味ということだ。

「義訓」は『万葉集』の用字法の一つである。「あめつち」の「天地」に対する「玄黄」、「はる」の「春」に対する「暖」、「おや」の「親」に対する「父母」などのように、義訓では、漢字の意義によって訓むが、読みに対してその用字が一般的ではない、熟していないもの。即ち、あめつちあめつちのような形である。

つぎに「添義法」があるが、「当て字」と「義訓」より非常に新しい言い方であると言えよう。中村（2007）と五十嵐^[2]はそれぞれの作品に「添義法」という概念をレトリックの手法として指摘している。例えば、五十嵐にあげられた「無言」に「しじま」と当てる例や、中村（2007）にあげられた『芸術は何のためにあるか』に出た「閑話休題」に「むだばなしはさておき」を当てる例がある。中村（2007）と五十嵐の定義は、添義法が振り仮名によって言葉の意義が豊富になるという点では共通している。しかし、五十嵐は、文学作品の添義法のほとんどは、親文字が漢文風の熟語で、振り仮名が口語か俗語という規律があることを指摘している。中村（2007）は、主に漫画をテキストに、添義法というのはかなり奇抜で一般には使われないような独自性の高い、意外性のあるフリガナ振られていることに注目し、意外性という点で「当て字」と区別している。

2.2 「修辞」、和歌の修辞

広義では、修辞は「レトリック」のすべてを指し、伝達効果を高める言語表現技術の総称（中村 2007:188）である。言語表現の技術のうち、伝統的に固定した技法に限定してこの語を用いる傾向がある（中村 2007:188）。修辞法を使うことは、修辞効果を果たすことを目的としている。

日本において、従来、和歌という形の歌があり、和歌に様々な修辞技法が使用されている。黄（2016）によってまとめられた通りに、和歌の修辞には、主に枕詞、序詞、掛詞、縁

[2] <http://balloon-rhetoric.atwebpages.com/igarashi/igarashi-figure24-01.html> 2017.5.19 アクセス

語、体言止め、本歌取りがある。その中で、言葉遊びという意味で、当て字と似たような効果をもたらせる和歌の修辞法は、掛詞及び縁語である。

掛詞というのは、同音異義を利用して、一つの言葉に二つ以上の意味を持たせるもの（黄, 2016）で、縁語は、ある語を中心にその語と縁の深い言葉を使って、連想による面白みを持たせる和歌の表現である。掛詞と縁語の関係というと、掛詞は縁語と併用することが多く、複数の縁語を用いることもあれば、縁語が掛詞になっていることもある。

掛詞の例として、「まつ」と「松」及び「待つ」、「よる」と「夜」及び「寄る」、「なげき」と「嘆き」及び「投げ木」がある。縁語の例として、「道」と「行く」及び「踏む」、「糸」と「縫る」や「張る」及び「乱る」、「鈴」と「振る」及び「鳴る」などが挙げられる。

本論でも、当て字にどのような修辞法が使われているかを検討したい。

2.3 日本の流行歌の歌詞の「当て字」と「当て字ペア」

日本の流行歌の歌詞の「当て字」というのは、日本の流行歌の歌詞の言葉が、その語の発音と違う仮名、漢字、アルファベット等を振られるものである。無論日本の流行歌の歌詞の言葉にも種類の多様性が見えるが、即ち、日本語の他に、英語やドイツ語、フランス語などの言葉が直接に使われていること、本研究では、日本語以外の言葉の歌詞を対象外とし、歌詞の日本語部分のみ扱う。また、方言や口語の読み方がルビである当て字（すなわち、音声的当て字）も研究対象から除外する。それは、本研究は主に歌詞とそのルビの意味上の違いに目をつけていくためである。

本研究では、歌詞の中にルビを振られる言葉を「親文字」と呼ぶ。「当て字ペア」というのは、親文字とそのルビから成り立ったペアのことである。本研究で抽出されたものの全ては「当て字ペア」の形である。

2.4 「メタデータ」と「日本の流行歌のメタデータ」

「メタデータ」は、一般に「データに関するデータ」と定義される^[3]。本ならば、本のメタデータは著者を始め、訳者、出版年、出版社、バージョン、ページ数までも本のメタデータと言える。同じく、「日本の流行歌のメタデータ」を歌の作詞家、作曲家、歌手、発表年代などといった情報とする。UtaTen が提供しているメタデータは、歌手、作詞家、作曲家、発表年代、ジャンル、「この曲へのみんな気持ち」という聴衆の感覚の投票結果などがあるが、本研究で触れた歌のメタデータは、作詞家、作詞家の性別（手作業で検索する）及び発表年代のみにする。

メタデータの研究には重大な意味と価値がある。メタデータはデータに関するデータとして、データの属性を表し、データの特徴の把握やデータへの理解の深まりなどに役立つと思われる。歌のメタデータとしての作詞家の性別情報やリリース年代を分析することにより、作詞家の性別別の傾向や、年代ごとの当て字の特徴などがわかるのであろう。

2.5 MeCab

本研究では、大量データを処理するために MeCab を利用する。

MeCab（めかぶ、和布蕪）はオープンソースの形態素解析エンジンである。コンピューターで実装すれば、入力された文が形態素解析により、[品詞]、[品詞細分類 1]、[品詞細分類 2]、[品詞細分類 3]、[活用型]、[活用形]、[原形]、[読み]、[発音]といった情報が表さ

[3] 一般社団法人メタデータ基盤協議会 <http://www.mi3.or.jp/origin/metadata.html>
2017.4.28 アクセス

れる。本研究では、当て字の判断に MeCab を発音辞書としてプログラムに利用し、歌詞の言葉の実際の発音とそのルビが一致しているかどうかにより、当て字であるかどうかの判断をさせる。具体的な応用は 3.1 節で述べる。

2.6 本章のまとめ

本章で本研究において触ったコンセプトや使用したツールなどを説明した。歴史上「当て字」と似たようなルビの使い方と「当て字」との区別を指摘した。修辞の定義と和歌の主な修辞を説明し、特に当て字と似ている掛詞と縁語に注目した。本研究の対象となった日本語流行歌の歌詞の当て字の定義をし、当て字ペアという形を説明した。社会言語学的に分析するために必要な歌のメタデータの収集も説明した。さらに、使用した言語学のツールの MeCab の主な機能と使い方を説明した。

第3章 当て字データ処理の作業手順

3.1 当て字ペアと歌のメタデータの抽出と記入

日本の流行歌の歌詞の当て字の収集には、Python というスクリプト言語でクローリング^[4]のプログラムを作成した。歌詞のウェブページの HTML 文書構造を分析し、非当て字混在の全ての親文字とルビのペアを抽出し、形態素解析器 MeCab を発音辞書のように使い、手作業も含め、非当て字を排除することができた。UtaTen に収録されている全曲の歌詞に出る親文字とそのルビ^[5]を自動で抽出できた。同時に、その歌のメタデータの作詞家名、年代、曲名、歌手名をも抽出した。以上の情報が、「親文字」、「ルビ」、「作詞家」、「年代」、「曲名」、「歌手」という形で、同言語で書いたプログラムにより、Comma-Separated Values^[6] (以下 CSV で略称する) ファイルに自動的に記入された (CSV ファイルの詳細は付録参照)。この結果、計 14,981 個当て字の例とそのメタデータ化することができた。

3.2 当て字ペアのデータ処理

収集された当て字の処理において、まず、「親文字」と「ルビ」の品詞を決めた。「ルビ」の言葉の品詞は、歌詞の中でつとめた品詞次第で決める。しかし、「親文字」の場合は複雑である。日本語には、複数の品詞を持った語があるためである。そのため、小学館の『大辞泉』を用いた「親文字」の品詞付けのルールを、例を通して説明する。

本研究では、以下の品詞がある。名詞 (代名詞除き)、代名詞、形容詞、形容動詞、副詞、動詞 (サ変動詞除き)、サ変動詞、感嘆詞、両方の品詞の属性を持つ名詞 + 形容動詞、名詞 + 副詞、副詞 + 助詞、形容動詞 + 感嘆詞、形容動詞 + 感嘆詞、副詞 + サ変動詞である。さらに、助詞、接頭詞、接尾詞、接続詞、連体形、準体言、準体言助詞、単漢字、文とその他がある。

[4] 「クローリング」とは、ロボット型検索エンジンにおいて、プログラムがインターネット上のリンクを辿って Web サイトを巡回し、Web ページ上の情報を複製・保存することである

[5] 「振り仮名」と称しないのは、仮名以外のものが振られる場合もあるため

[6] Comma-Separated Values (略称: CSV) は、いくつかのフィールド (項目) を区切り文字であるカンマ「,」で区切ったテキストデータおよびテキストファイル

A.親文字が単語の場合

(1)親文字は辞書にある語

①単一の品詞を持った語の場合：その品詞を記する

例：「^{あなた}酸素を求めて」（「エンジェルフィッシュ」）

歌詞の中の「酸素」は名詞のみであるため、品詞欄に「名詞」と記する

②複数の品詞を持った語の場合：両方の品詞を記する

a.名詞＋形容動詞

例：「愛する人を失った現実と^{ロンリネス}寂寥」（「leave me alone」）

「寂寥」は名詞と形容動詞両方であるため、「名詞＋形容動詞」と記する

b.副詞＋サ変動詞

例：「^{ビガンギ}艶艶」（「108 煩惱 BOMB」）

c.形容動詞＋サ変動詞

例：「^お懐！^ん悩！^ののさなか」（「腹！筋！録！」）

d.副詞＋感嘆詞

例：「^{そう}然様か其れすら無理か」（「熾天の隻翼」）

③その他：

a.「サ変動詞」の場合：漢語の名詞の言葉に「する」をつけば、動詞になるので、名詞と動詞の両方の性質を持っていると考えられるため、本研究では「サ変動詞」という枠を作るという形式で特別に扱う。

例：「また始める前に自分で^{おわり}終了の笛鳴らして」（「会いにいくよ」）

「終了」は「サ変動詞」に属するため、「サ変動詞」と記する

(2)親文字が辞書にない語

①送り仮名がない：

a.品詞のない単漢字：「単漢字」を記する

例：そう出逢った瞬間に同じ^{ひかり}臭を感じた（「星のかがやきよ」）

「臭」は品詞が決められない単漢字であるため、「単漢字」と記する

②送り仮名がある：送り仮名を除いた後の語は、

a.辞書にある場合：「サ変動詞」は「サ変動詞」と記する他、辞書に示した品詞の通りに記する

例：私の思慕^{おも}いを（「淋しい熱帯魚」）

「思慕」は辞書にない言葉であるが、送り仮名除きの「思慕」は「サ変動詞」であるため、「サ変動詞」と記する

例：高価^{たか}い物がいいもん（「アンダーシャツ」）

「高価」は辞書にない言葉であるが、送り仮名を除けば、「高価」は辞書にある語で、名詞と形容動詞の品詞を持っているため、「名詞+形容動詞」と記する

b.辞書にない場合あるいは品詞のない単漢字：親文字の活用語尾で判断する

例：殺^いかせてほしい（「STOP MOTION」）

「殺かせる」は辞書になく、送り仮名を除いて得た「殺」は品詞が決められない単漢字であるため、親文字の「殺かせる」の活用語尾「る」で動詞と決め、動詞と記する

例：「大空にはじけて耀^{ひか}るだろう」（「Believe」）

「耀る」は辞書にない語であり、「耀」は品詞のない単漢字のため、「耀る」の活用語尾「る」で動詞と決めて「動詞」と記する

B.親文字が二つ及び二つ以上の語や単漢字、符号などから成り立った語の場合：中心語の品詞次第であるが、中心語が複数の品詞を持った場合に、両方を記する

(1)名詞型フレーズ：「名詞」と記する

例：親愛^{ディアマイフレンド}なる君へ（「Dear my friend -手紙を書くよ-」）

例：柔和^{バナナコッタッタ}な誘惑（「108 煩惱 BOMB」）

例：三途^{かわ}の川（「flying」）

例：途中^{ナアナア}停止（「108 煩惱 BOMB」）

例：もう一度^{Refrain}（「ヨシ子さん」）

例：頭^{きみのこと}ん中君の事（「君にファンキーモンキーバイヴレーション」）

(2)動詞型フレーズ：「動詞」と記する

例：目^{めざ}を覚ましテレビをつけて（「Irie Got ～ありがとうの詩～」）

例：何^{ゆけども}里行けども（「ちゃつきり茶太郎」）

(3)副詞型フレーズ：「副詞」と記する

例：木漏れ日^{モーニング}が差す朝に（「ブランコ」）

例：本気で（「^{ほんとうに}とっておきの唄」）

例：今もふたりの宇宙（「^{いつも}My First Love Song」）

(4)形容詞型と形容動詞型フレーズ：「形容詞」或いは「形容動詞」と記する

(5)格助詞型フレーズ：「格助詞」と記する

(6)複数品詞型フレーズ

(7)その他：「その他」と記する

例：綺麗^{きれいごと}+言葉（『四六"時「己」中"キミ時間オレ時計～メトロノーム同期現象～』）

C.親文字が句の場合

例：「なんで私なの？」（「^{Vi-Vi-Vi}-Rebirth ver.-」）
「文」と記する

D.その他

例：超^{スーパー}（「炒飯 MUSIC」）

「超」を「接頭詞」と記する

例：毎^{エブリ}（「昼顔 -belle de jour-」）

「毎」を「接頭詞」と記する

例：然^{しこう}して嫌ではないけど（「御一人様」）

「然して」を「接続詞」と記する

3.3 メタデータの処理

3.3.1 作詞家

作詞家の生理性別性別をインターネットで検索し以下のように記入した。

本研究では、便宜上、表1のように作詞家の性別を表示する。男女混在や確定できない作詞家を性別研究の対象外とする。

表 1 作詞家の性別とその表記対照表

性別	表示
男性（男性団体含み）	m
女性（女性団体含み）	f
対象外	男女混在
	g
	確定できない
	null

3.3.2 曲名

同じ曲名で、異なる年に新しくリリースされた場合がある。重複計算にならないために、このような歌を手作業で削除した。

例えば、TAKURO が作詞した「誘惑」という歌は、1998 年、2011 年、及び 2014 年にそれぞれ違う歌手によって歌われる形で、三回もリリースされているが歌詞の内容には変わらない。重複の歌を削除する際の原則は、最も早くリリースされたものを保留するのである。そのあとのバージョンをカバーバージョンと視する。

3.4 本章のまとめ

本章で、詳しく当て字のデータ処理のプロセスを説明した。当て字の特徴を分析するために、品詞を決めることや、作詞家の性別などを調べるのが極めて大事であるため、きちんとこそすれば、結果の精確さが保証できる。

第4章 当て字のデータ

本章では、収集した当て字データを統計結果と具体例の形で示す。まずは、頻度トップ15の親文字、ルビ及び当て字ペアを提示する。次に、頻度が多いものは誰でも使用し、固定化が進んだものであるため、斬新な例にも意味があると考え「少数派」の当て字の例をも見る。それから、当て字の拍数の特徴を統計と例を通して見る。さらに、全体の当て字の品詞の特徴をまとめる。最後に、性別別と年代別当て字の特徴や変化を見る。

4.1 頻度トップ15の親文字、ルビと当て字ペア及び修辞法

延べ数が全体の50%くらい占めている頻度トップ15の親文字とルビ及び当て字ペアをそれぞれ整理し、表2(1)、表2(2)、表2(3)に示した。ルビの統計は、表記法を問わずに行った。ここでいう表記法は具体的に、ひらがな・カタカナ・ローマ字の表記、または「ほん」と「ほんとう」の区別のような長音表記を指す。

表2(1) 頻度トップ・15の親文字

ランキング	頻度トップ15の親文字	頻度
1	娘	852
2	時間	713
3	瞳	597
4	瞬間	591
5	永遠	542
6	運命	459
7	未来	443
8	理由	395
9	現在	282
10	地球	260
11	時代	250
12	他人	205
13	女	179
14	季節	149
15	真実	138

表 2(2) 頻度トップ・15 のルビ

ランキング	頻度トップ 15 のルビ	頻度
1	とき/トキ	1760
2	こ/コ	857
3	ひと/ヒト	712
4	め/メ	605
5	とわ/トワ	573
6	さだめ/サダメ	477
7	いま/イマ	428
8	わけ/ワケ	387
	ほし/ホシ	377
10	そら/ソラ	199
11	まち/マチ	191
12	ゆめ/ユメ	172
13	あした/アシタ	171
14	あす	168
15	みち/ミチ	136

表 2(3) 頻度トップ・15 の当て字ペア

ランキング	頻度トップ 15 の当て字ペア		頻度
	親文字	ルビ	
1	娘	こ/コ	840
2	時間	とき/トキ	706
3	瞳	め/メ	589
4	永遠	とわ/トワ	535
5	瞬間	とき/トキ	527
6	運命	さだめ/サダメ	431
7	理由	わけ/ワケ	384
8	現在	いま	268

続き 表 2(3)

ランキング	親文字	ルビ	頻度
9	時代	とき/トキ	242
10	地球	ほし/ホシ	226
11	他人	ひと/ヒト	194
12	未来	あす	155
13	未来	あした/アシタ	154
14	女	ひと/ヒト	150
15	季節	とき/トキ	130

表 2(1)により、一文字の「娘」が最も多く（852）当て字の親文字とされることがわかった。続いては二文字の「時間」で、713 だ。三位はまた一文字の「瞳」で、四位は二文字の「瞬間」である。

表 2(2)により、ルビの 1 位は「とき/トキ」である。「とき/トキ」は「時間」や「瞬間」、「時代」または「季節」といった複数の親文字があるが、どれも時間を表す言葉である。

頻度トップ 15 の親文字の 80%は二文字の漢語で、残りの 20%は一文字の和語である。それにひきかえ、トップ 15 のルビの全ては一拍から三拍までの和語である。また、トップ 15 の当て字ペアには、八割は漢語の親文字と和語のルビの組合で、二割は和語の親文字と和語のルビの組合である。

これから、トップ 15 のルビと当て字ペアと照合しながら、トップ 15 の親文字の含む具体例を見ながら説明する。

表 2(1)(a) 親文字「娘」のルビごとの頻度と歌詞例

	ルビ	頻度	歌詞例
「娘」が 親文字	こ/コ	840	(1)でもあの娘は優雅に走る階級（「走る階級」） (2)他の娘の話でると キュンとなる（「ラヴリー フレンドシップ」） (3)あの娘の前でいつも どんな顔して笑っているの？（「背中越しの笑顔」） (4)惚れたよ 惚れたよ あの娘に惚れた（「あかね雲」） (5)あの娘の体温感じたい（「SUN SUN SUN '95」） (6)今夜もあの娘はだれかとあそびに出かけるのさ！（「恋のマジックポーション <恋のロンドン・ミックス>」） (7)ぼくはあの娘の心が欲しい（「モナリザの微笑」）
	こども	10	(8)あなたの娘に生まれて幸せです（「MOTHER ~7S Ver.~ with 奥華子」）

続き 表 2(1)(a)

	ルビ	頻度	歌詞例
「娘」が 親文字	ねえ	1	(9)SEXY 娘ちゃん チェックしたいな(「CLUBへ」)
	ひと	1	(10)太地に契った娘 永遠の彼方(「風の戦士」)

(10)を除き、「娘」という親文字が含む歌詞の歌のほとんどは、恋愛に関する歌である。真の愛の気持ちを表す歌があり、性に関する歌もある。「娘」は対象の女性という性別を明示し、その上、違うルビによって具体的に指す意味が変わっている。(1)~(7)は愛する女性のことを指し、(8)は母の子どものことを意味し、(9)はおそらくクラブの女性のことを指しているため、若い女性の呼称の「ねえ(姐の意味)」を当てたのではないかと思われる。(10)は普通の意味での人間を指し、「ひと」と当てている。

表 2(1)(b) 親文字「時間」のルビごとの頻度と歌詞例

	ルビ	頻度	歌詞例
「時間」 が親文字	とき/トキ	706	(1)楽しいだけじゃ 時間は過ぎないね(「笑顔を忘れない」)
			(2)このまま時間を忘れ(「All My Loving」)
			(3)時間は流れて 夢もうもれて(「トーキョー」)
			(4)どれだけの時間を傷つけてきたんだ(「I」)
			(5)時間よ止まれと願った(「Feel fine!」)
			(6)傷ついた時間ほど なつかしいのは何故(「明日を抱きしめて」)
			(7)人に流されて 時間に流されて(「私のように」)
			(8)時間を止めて 刻んだ記憶(「彩り」)
			(9)同じ空見上げて 青春の時間(「HKT48 ファミリー」)
			(10)待ち続けて時間が 過ぎてゆく(「話しかけたかった」)
	おもい	2	(11)重ねた時間のあしたが今から始まる(「Glisten」)
	あいだ	1	(12)ブラウン管を映す短い時間(「The 7 Wonders」)
	いま	1	孤独な花になれ 砂漠の中の 時間を咲いておくれ(「O.L」)
	きせつ	1	(13)あなたの生きる これからの時間(「愛のまままで...」)
	キッカケ	1	(14)涙できる場所 泣ける時間でありたい!(「ウチ!ウチ!ROCK~取り扱い説明書~」)
タイム	1	(15)時間&タイミン Good No!せいにスルーな!(「願ティ部×1人の脚」)	

表 2(1)(b)のように、「時間」が同義の「とき」に当てられる場合が最も多い。また、「時間」の意味を明示し、「きせつ」や「いま」、「キッカケ」と当てる例もある。カタカナで英語からの「タイム」に当てられる例もある。さらに、数が少ないが、レトリック的手法を使い、「時間」を「おもい」と喩える例もある。時間の流れとともに、相手に対する思いも積み重ねていくという意味では特別な隠喩になっていると思われる。

表 2(1)(c) 親文字「瞳」のルビごとの頻度と歌詞例

ルビ	頻度	歌詞例	
め/メ	589	(1)罪も嘘もないその瞳に（「夏にマフラー」） (2)君の瞳に映るために（「恋よ叶えて」） (3)透明な瞳にスレンダー（「Your Song」） (4)瞳をこらせば 夢が見えてるから（「Long Road」） (5)君の瞳の中の星 見つめていたら（「One×Time」）	
からだ	2	(6)強く叫ぶ私の瞳を抱いて（「強く叫ぶ私の瞳を抱いて」）	
「瞳」が 親文字	まなざし	1	(7)おとぎ話さと 冷めた瞳で（「～infinity～∞」）
みらい	1	(8)たとえこの瞳が 見えなくなっても（「さらば青春の影よ」）	
アイズ	1	(9)すべて捨てて覚醒める壊れた瞳（「惰天使ハニー」）	
Eye	1	(10)力だけじゃ Can't take 世界睨んだ「瞳」（「不滅のインフェルノ」）	
EYES	1	(11)すべて捨てて覚醒める壊れた瞳（「惰天使ハニー」）	
レンズ	1	(12)そのつぶらな瞳に 今何が映ってるの？（「見つめていたい」）	

「瞳」が最も多く当てられたルビは同じく視覚器官の「め/メ/目」である（(1)～(5)のように）。瞳は目の部分として、目と意味上連結できることが理解しやすい。「瞳」に(6)のように「からだ」を当てるという作詞家の個性的な当て字は滅多に見なく、誇張の意図が伝わってくる。目線を交わし、強く抱き合って欲しいという思いが瞳から表した。他に瞳と共通の意味を持つルビには、(7)「まなざし」、(9)「アイズ」、(10)「Eye」、(11)「EYES」、(12)「レンズ」がある。特に、「瞳」という物質的実体が「まなざし」という物理的実体ではないものにされることで、特別な当て字だと言えよう。その当て字を通じ、瞳から冷たい目線が差し出す場面が想像できる。その他、(8)の「みらい」というルビを当てることで、「瞳」にレトリック的意味を持たせた。瞳が見えることと、未来が見えること両者が一体となり、読者の歌の主人公二人の物語を吟味したり、その展開を楽しんだりする興味を引く。

表 2(1)(d) 親文字「瞬間」のルビごとの頻度と歌詞例

ルビ	頻度	歌詞例
とき/トキ	527	(1)その瞬間に触れる 気持ちに向き合って (「ラビリンス」) (2)ときめく瞬間、(「愛こそすべて」) (3)同じ瞬間をかける仲間がいる(「虹」) (4)今この瞬間が永遠に続く愛の証(「Promise」) (5)目覚めた瞬間 いないなんて(「唇のかたち」)
いま/イマ	48	(6)同じ瞬間を生きてたい(「B.I.O」) (7)移ってゆく瞬間をくちづけて閉ざして (「Daydream Café」) (8)瞬間を抱き寄せたい(「Girls Be Glamorous」) (9)瞬間と瞬間 ぶつけあって進め (「Fireworks」) (10)ときめきに心開かなきゃ 瞬間が逃げてゆく (「Sparkling Girl」)
じかん	5	(11)かけがえない「瞬間」を(「Rhythm Generation」) (12)錆び付いた傷跡は確かな瞬間でかき消して (「Justice to Believe」)
あした	3	(13)まだ見ぬ日々に 想いを乗せて 瞬間を選ぶ my heart (「THIS IS MY LIFE」)
あいだ	1	(14)星が流れて消えてゆく瞬間も(「クリスマス・ラブ～涙のあとには白い雪が降る～」)
ひととき	1	(15)せつなすぎる瞬間(「君がここにいてほしい」)
モーメント	1	(16)魔法かけるよ!カラフルな瞬間(「ショータイム!」)
よる	1	(17)知ってしまったのもっと楽しい時間のこと (「NEON NIGHT」)
きおく	1	(18)まぶしい瞬間は永遠に(「悪魔な恋」)
こと	1	(19)きっとまだね 忘れられない瞬間に出会える (「ぼくらのゆめ」)
せつな	1	(20)この瞬間に感じ合える(「まもりたい～この両手の中～」)
そのとき	1	(21)出逢った瞬間に(「思い出の九十九里浜」)

「瞬間」は親文字として様々なルビと、当て字ペアになっている。もっとも普通に見えるのは意味が同じだが、拍数が少ない「とき/トキ」である(1)～(5)。その次、(6)～(10)の「いま/イマ」という具体的な時間を指す語もよく「瞬間」と結びつけられている。時間に関する豊富な表現がルビになっていることがわかる。

和語の(13)「あした」、(14)「あいだ」、(15)「ひととき」などがあり、漢語の(11)「じかん」もあり、さらに外来語の(16)「モーメント」もある。常用の言葉の(17)「よる」、(18)「きおく」などがあり、非常用の言葉で仏教気味の(20)「せつな」もある。

比喩手法と言うと、「瞬間」を「きおく」と喩えルことによって、「瞬間」という普通の言葉に貴重感を味付けた。瞬間、つまり、この記憶を大切にすることを伝えた。

表 2(1)(e) 親文字「永遠」のルビごとの頻度と歌詞例

	ルビ	頻度	歌詞例
	とわ/トワ	535	(1)永遠に治らない愛の病が（「愛の病」） (2)この場所から永遠に Say good bye（「君に詠む歌」） (3)永遠の誓いすべて君に捧ぐから（「光」） (4)永遠の夢に向かって（「Dear...my love」） (5)抱いて抱いてああ永遠も越えたい（「宝石の時間」）
「永遠」 が親文字	とこしえ/と こしへ	2	(6)天永遠に動かず（「白雲の城」） (7)そっと燃え盛る火桜よ 咲け 永遠に（「瑠璃ノ空へ」）
	たえ	1	(8)永遠なる微笑みを（「光の世界」）
	とおい（永遠 い）	1	(9)捧げられた永遠い祈りなのね（「水の星へ愛をこめて」）
	ずっと	1	(10)「永遠」って欲張るのなら（「NO you! NO life! NO...xx?」）
	いま	1	(11)僕は永遠を抱きしめ（「朝水彼方」）
	あい	1	(12)ぬくもりを永遠と読んでもいいですか（「春が来た」）

(1)～(5)のように、「永遠」に「とわ/トワ」を当てる当て字が普通に多く見られる。「永遠」と「永久」が意味上等しいためである。(6)と(7)は、「永遠」が古風の歌で、古風な言い方の「とこしえ/とこしへ」という例が二つある。次に(8)は、形容動詞の「たえ」に当てられ、「妙なる」になり、微笑みの様子を具体的に表現できた。ここで面白いことに、一般、「永遠」の意味と初めに連想できそうな言葉が「たえない（絶えない）」であるが、わざとこれを使わずに、「たえなる」と当て、個性が溢れた当て字にしたのではないであろうと思われる。

(9)で、「永遠」という二文字の言葉を利用し、「い」語尾をつけ形容詞に作り、「遠い」の意味をもたらされた。「永遠」と「遠い」の奇妙な文字の組み合わせにより、歌詞の読者に新鮮感を持って来られるのであろう。

(10)の例で、歌詞の文脈は二人の間に起こった口語の対話のため、「ずっと」という口語的な和語を使うことに違和感ない。歌詞の中で「永遠」という二文字の漢語を使うことにより、フォーマルな感じがある。当て字という形で、口語と文章語が対になり、共に特別な雰囲気を作り出している。

(11)で、「永遠」という長く遠いことを意味する言葉が、現在・目の前を意味する「いま」に当てられ、今現在こそ永遠に続く未来のことだという意味を伝えている。今現在を

抱き、大切にすることが先遠い未来を大事にすることとは等しいという深刻な意味が潜んで、聴者に気づいて欲しいのではなからう。

(12)の例文はそれ自体が当て字のことを言っている。「ぬくもり」と書いて、「永遠」と読ませる当て字が例文から読み取れる。それと同時に、「永遠」の上に「あい」を当て、二重の当て字になった貴重な例である。春が来て、季節の温もりが永遠の愛のように続くのであろう。他に似たような歌詞例は、RADWIMPSの「ふたりごと 一生に一度のワープ」に『君と書いて「恋」と読んで 僕と書いて「愛」と読もう』という歌詞があり、それもある意味での異曲同工だと思われる。

表 2(1)(f) 親文字「運命」のルビごとの頻度と歌詞例

ルビ	頻度	歌詞例
さだめ/サダメ	431	(1)闇を抜けて 運命を受けて (「C.A.L.L.I.N.G」) (2)運命が哀し(「夢いちりん」) (3)降り注ぐものが譬え 雨だろうが運命だろうが(「闇に降る雨」) (4)運命のように 出逢ったふたり(「愛は永遠に...」) (5)逃れ得ぬ運命から 守ろうとしたのでしよう(「ムカシガタリ」)
ディステイニー ー/デステイニー ー/デストニー	7	(6)天使にする運命(「YA! YA!」) (7)狂った運命(「永遠の孤独」) (8)勝手に“運命”感じないでほしい(「Mind Ya Biz」)
「運命」が 親文字	シックザール	(9)我が眷属の運命(「とある預言者の、運命」)
	みち	(10)あらかじめ決められた運命を歩いているのなら(「君がうまれた日」) (11)戦いの運命を歩き続けてた (「DRAGONFLAME」)
ほし/ホシ	2	(12)赦されないのは 偽りの君の運命(「射手座☆午後九時 Don't be late」) (13)夢にはぐれて 運命にはぐれて(「闇に溺れる」)
あるく	2	(14)私は疑わず運命いて行く(「もう一度会えたなら」)
あい	1	(15)託せるべき運命の行き先は君だ、虹(「暁のカルマ」)
いと	1	(16)拗れた運命が選んだ小指(「un secret」)

かぜ	1	(17)荒くれの運命どもをなぎ倒すまでは(「毘藍ノ風」)
いま	1	(18)残酷な運命を逃げないで(「Pray」)
きずな	1	(19)この広い世界 一つだけの 運命を離したくない(「True Love Story」)

続き 表 2(1)(f)

ルビ	頻度	歌詞例文
こと	1	(20)巡り会えた運命を(「Without you」)
すべて	1	(21)運命をかけられるものをみつけに行こう(「永遠の夢に向かって」)
ひと	1	(22)一人ずつ その運命に 出会えるように(「星が解けて」)
「運命」 が親文字	ふえいと	(23)Galaxy の果てを翔ける時だけ 運命の呪縛を(「ポラリス」)
みらい	1	(24)二人描く運命照らした(「La storia」)
Distino	1	(25)自業自得の運命切なく照らして(「ROSA-魅惑のバリライト-」)

すでに国語の辞書に定着したのかと思わせるぐらいに、「運命」が(1)~(5)のように、「さだめ/サダメ」に当てられている。その他、「運命」には数多く豊富なルビが見える。(6)~(8)では、違った形での外来語である「ディスティニー/デスティニー/デストニー」が出た歌詞の文脈のほとんどは、ラップ詞である。それは、外来語の方がラップ詞にリズム上や音声上似合うためなのであると考えられる。また、(9)のドイツ語からの外来語「シックザール」と(23)英語からの外来語の「ふえいと」もそれぞれ一人の作詞家が使っているものだ。(25)はフランス語の単語がそのままルビとして使われており、歌詞例文の前後にもフランス語の文が頻出し、全体のスタイルとしては統一であると言える。

レトリック技法は「運命」のルビにも見つかる。「運命」を、(12)(13)「星」、(15)「愛」、(17)「風」、(19)「絆」、(10)「道」、(16)「糸」、(22)「人」や(24)「未来」と喩え、「運命」という元々抽象的なものに具体像を描いた。運命は掴めないものではなく、形があり、見えるものだったり、拗れるものだったり、歩けるものだったり、感じられるものだったりである。例えば、(22)では、「人」が普通の意味での「人間」ではなくなり、「運命の出会いの人」の意味が持たられ、ロマンチックな雰囲気が作られている。また、(16)は運命を糸と喩え、運命が形象化され、後に来る「小指」とも呼応し合い、比喩として全体感が守られている。(17)の「風」という比喩もそうであるし、変化している運命は荒くれの風の如く、行き方知らず、ひたすら吹き続けている。修辞技法により、運命の非常に豊かな意義がわかりやすく伝わってきた。

表 2(1)(g) 親文字「理由」のルビごとの頻度と歌詞例

ルビ	頻度	歌詞例
わけ/ワケ	384	(1)今でも“君の好きな私”でいる理由は （「ス・キ・ラ・イ」） (2)出逢った理由はどうだっていい （「resonance」） (3)この場所に生まれた理由（「卯の月」）
こと	3	(4)そんな理由で別れたら（「NO you! NO life! NO...××?」） (5)おい、そんなしょーもない理由で凹んで んの？（「オトコボンバー」）
「理由」が 親文字		
ゆえ	3	(6)心焦がれ離れる理由（「MIZUE」） (7)理由ない吐息 理由ない涙（「また恋に 落ちましたね」）
いみ/イミ	3	(8)見せて生きてる理由（「Ars Magna」） (9)求める理由は小さすぎて（「螢」）
こたえ	1	(10)納得いく理由は教えてもらえないし （「理由」）
レゾンデート ル	1	(11)綴ってく存在理由（「Reason Living」）

「理由」に「わけ/ワケ」を当てる当て字もよく耳にするほどごく普通になったと言えよう。(4)と(5)では、「こと」という形式名詞で、「理由」が歌詞に明示されなくなり、文全体のスタイルもより口語のように聞こえた。

「理由」に(3)「意味」と(10)「答え」を当て、単調だった「理由」が他の言葉の色彩を帯びていた。

フランス語からの外来語(11)「レゾンデートル」の含んだ歌詞の歌は、全曲でフランス語からの外来語が数回の登場があり、曲名にも出た全曲のキーワードである「理由」に「レゾンデートル」を当てることが全く違和感なく、フランス語のもたらした現代感が増していった。また、「レゾンデートル」は自身が信じる生きる理由、存在価値という意味で、親文字の「存在理由」とは等しく、哲学的感じをもたらしており、人生や存在理由についての思考を促している。

表 2(1)(h) 親文字「現在」のルビごとの頻度と歌詞例

ルビ	頻度	歌詞例
いま/イマ	270	(1)今行けるところまで（「JUST MY FRIEND」） (2)私はたった現在（「真夜中は純潔」） (3)現在が見えなくなっていた（「さよならより永遠の中で」）
ここ/ココ	4	(4)私が今、現在にいて唄えるのは君がいたから（「青空」） (5)現在から始まる（「Eyes」）
「現在」が 親文字		
きょう	3	(6)過去も現在も未来も 全て重ねて（「最後の恋にさよなら」）
こと/コト	2	(7)変わらない過去（モノ） 変わっていく現在（「僕の宝物」）
とき	2	(8)君が戻らない現在 どうすれば分かり合える（「beautiful days」）
ばしょ	1	(9)もう何もいない 二人の現在があるなら （「Snow Dance」）

同じく目の前という意味を表す「現在」と「いま」(1)~(3)が当て字ペアになっていることに驚きはしなからう。また、同じく時間的意味を持った(2)の「とき」がルビになっていることも理解しやすい。特別なのは、(4)、(5)と(9)のように、場所的な代詞を時間的な言葉に当てる例である。孟(2014)は、日本語に格の重複現象が起り、特に二重デ格的構文の発生可能性は事象の構造と関わっていると指摘しており、その中「時間+場所」という二重デ格的構文の可能性を示している。ここにおける場所と時間を表す言葉が当て字ペアになっていることも二重デ格と二格構文の説明ができる。これにより、歌詞に時間と場所の二重の事象を与え、当て字の形で共起させ、意味感覚を充実させた。

「現在」に当てるルビの中で、(6)と(7)が最も個性のあるものである。(6)では、「過去」に「きのう」を、「現在」に「きょう」を、「未来」に「あした」を、三つ同時に当てている。漢語で「きのう」、「きょう」と「あした」という言葉に等しい語にそれらをそれぞれ当てるということで、漢語と和語が繋がるようになった。当て字がここにおいて、伝統を代表する和語と所謂舶来文化を代表する漢語を繋げる架け橋の役目を果たしている。当て字の存在により、日本語の表記システムの一体感がより強まった。

(7)では、「過去」と「現在」の対照に、「モノ」と「コト」の対照が呼応し合っている。「コト」に比べると、「モノ」の方が実際存在している実体を指している。この意味上の対照を利用し、過ぎていった「過去」を変わらなく、決められたモノと譬え、対して、起こっている「現在」をまだ進行中で、変化しており又は変わっていく、決めていないコトに譬えている。直接に「過去」と「現在」という反対語で明示するより、「モノ」と「コト」という形の簡単な形式名詞が、聴者あるいは読者に吟味する余地を残した。

表 2(1)(i) 親文字「地球」のルビごとの頻度と歌詞例

	ルビ	頻度	歌詞例	
「地球」が 親文字	ほし/ホシ	226	(1)地球の音色 そっと静かに聴きながら （「ブランコ」） (2)こんな地球に生まれついたよ （「evolution」） (3)この地球に 奇跡を起こしてみないか （「HEIWA の鐘」） (4)この地球に 君の名前を Love you そう 告げた（「キャンディ」） (5)この地球の 人達みたいに 様々な光を 放って（「流れ星～Shooting Star～」）	
	せかい	7	(6)僕らはまた出かけよう 愛おしいこの地 球を（「RPG」） (7)地球で一番熱い夢に！！（「SUMMER PLANET No.1」） (8)遠く離れても 同じ地球 同じ世代 （「Dear my friend -手紙を書くよ-」）	
	ここ/ココ	5	(9)地球にはともに越えてくべき人がいて僕 にとってそれが君だった（「FULL JUMP」） (10)いま地球に生きるものよ（「旅立ちの 時」） (11)私が地球に生まれたホントの意味はな に...（「天使たちのメロディー」）	
	ばしょ	5	(12)Piece of world この地球は（「Piece of world」）	
	こころ	3	(13)Jumping to my heart 眩しいこの地球で （「Ultra Music Power」） (14)最前線で劣勢だって save したいこの 地球（「さよならセンセーション」）	
	くに	2	(15)同じ地球に生まれたの ミラクル・ロマ ンス（「ムーンライト伝説」）	
	そら	2	(16)この広い地球のどこかで いつか笑え る日々がくるから（「SHOGO」）	
	ぼくら	2	(17)見上げれば宇宙 地球もそのひとつ （「Tiny Star」）	
		アース	1	(18)人の夢を乗せた地球（ジェラシー）

ルビ	頻度	歌詞例文
いま	1	(19)この地球を生きるあなたとそっと確かめていた (「Your is All...」)
かま	1	(20)お国それぞれに 読みも書きも違う それこそがいいの ひとつの地球の中 (「万博ササニシキ 2016」)
「地球」 が親文字	1	(21)この道の果て 宇宙へと駆け上がって 戻れない地球 星に成って (「桃色空」)
ふるさと	1	(22)優しいぬくもり 戻らない地球 (「微笑みを思い出すまで」)
まち	1	(23)白い墓標が 地球に連なり 舞い散る 流れ星 (星「が解けて」)
わくせい	1	(24)俺のこの決意 きっと見ててほしい 戸惑いの地球で (「New Position」)

人類の共通の母親である地球も色々な当て字に当てられている。(1)~(5)のように、和語の「地球」に漢語の「星」を当てる場合が最も普通で、多く見られる。「星」となると、キラキラな感じがしながら、広い宇宙の中のごく微小の存在という意味も含んでいる。それで人類はこの綺麗な地球を大切に守らないといけないし、自分の存在はたかが地球の上の一粒だということを、当て字を通して述べている。「星」という感覚的には積極的なイメージは、地球にまたは歌詞にポジティブな感覚を注いでいる。

地球は「せかい」、「ぼしょ」や「ふね」といった和語に当てられたり、無論「アース」という外来語にも、「惑星」という漢語にも当てられたりしている。(6)~(8)では、地球に「世界」を当て、実体である地球を世界という抽象的概念を持たせ、無感情の土でできた地球でなくなり、人間や動物、植物など数え切れないほど多くの「一粒」によって共に作り上げられた世界という意味で、その歌詞の意味が豊富された。

(13)で、地球にレトリック的に「心」を当て、歌詞の英語の部分「Jumping to my heart」と呼応し合っている。心というのは heart こそである。(14)では、地球を救うことを、自分の心を救うことと同様に考える心の熱血学生たちの姿が生き生きとするようになっている。(15)は、色々な星があることを前提に、約束せず共に地球という星に生まれ、まさに同じ国に生まれたかのような奇妙な運命の決まりの感じを聴者に伝えようとしているのではなからう。

地球というと、すぐに連想がつきそうな(16)の「そら」もルビとして登場している。地平線が見えないところで、地球と空の境が曖昧になり、まるで一体となったかの広大な感じを聴者に想像させた。

(17)の「ぼくら」は複数人称代詞で、地球に佇立し、自慢そうに地球の存在や独特性を宣言していそうな様子を描いている。広い宇宙の中で、この地球という星に生まれて集まっている団結の地球人に何かを促そうとしているようである。

(20)で、地球を釜と喩え、明示していないが、地球の国々を同じ釜の飯を食べる仲間と隠喩している。釜の料理をシェアしたりするように、世界の国々がひとつ地球で資源を分け合ったり、競争し合ったり、交流し合ったり、カラフルな世界に共存しながら、地球の反映に貢献している。

そのほかの喩の例は(21)や(23)などである。丸い地球を「舟」と喩え、運命共同体という深意を持たせている。また、地球を「町(街)」に具体化することにより、地球の様々な町様子が現れ、生気に満ちている。

表 2(1)(j) 親文字「時代」のルビごとの頻度と歌詞例

ルビ	頻度	歌詞例
とき/トキ	242	(1)時代が Coming (「Theme of Coming Century」) (2)どんな時代がきても I live 強くいたい (「Namie Amuro」) (3)移りゆく時代の中で (「EDEN」)
ここ	2	(4)時代から先 夢を掴め (「C.A.L.L.I.N.G」) (5)現在から始まる (「Eyes」)
いま	1	(6)もしもこの時代に呑み込まれそうでも (「24/7 Cruisin' feat. LL BROTHERS」)
「時代」 が親文 字		
キセツ	1	(7)手を振った キミといた時代 (「キミがいたから」)
じかん	2	(8)時代の波に流されて 心を失う (「～infinity～」)
せかい	1	(9)進化してゆく時代の中で (「夏の幻」)
ばしょ	1	(10)いつまでも季節は同じ時代にいられない (「FRIENDS～知己朋友～」)
メディア	1	(11)形を変えていく時代は 雑味を増やした (「JULIA」)

(1)～(3)のように、漢語の「時代」に和語の「とき/トキ」を当てる場合が普通で多い。時間的意味を持つ「時代」に地理的意味を持つ「ここ」や「ばしょ」をルビとして当てた場合に、親文字「現在」のところで既に述べたように、時間と地理という二重の表現が歌詞の文に加えられ、確実に「今ここだ」と重ねた構文の感じがもたらす。

この中で特別なルビは(11)の「メディア」で、形を変えていく時代の具体のものを指しており、前後の歌詞の文脈と合わせるために当てたと考えられる。

表 2(1)(k) 親文字「他人」のルビごとの頻度と歌詞例

「他人」が	ルビ	頻度	歌詞例
-------	----	----	-----

親文字	ひと/ヒト	194	(1)ざらつく感情 他人のせいにしてしている透 明なエラミー（「OOPARTS」） (2)他人と自分を傷つけ生きてたんです （「街」） (3)他人には言えないこと（「運命 ～ DESTINY～」）
	だれか	7	(4)昔住んでた小さな部屋は 今は他人が住 んでた（「C.A.L.L.I.N.G」） (5)きっとあなたもどこかで他人を愛しなが ら（「Memories」） (6)他人を見つめて みんな 生きているか ら（「KOHSHI INABA」） (7)他人に嘘つかれて 傷ついても（「I'm your side」）
	だれ	2	(8)過ぎた日も他人のことも きっと変えら れない（「Result」） (9)他人と比較（くら）べる幸せなんていら ない（「愛のままで…」）
	アイツ	2	(10)君を傷つけることを 他人は知らない から（「My Babe 君が眠るまで」） (11)それで他人の気持ちがわかるんだ（「ホ ントのじぶん」）

「他人」に当てるルビの全部は対象不定の人称代名詞である。漢語の「他人」に和語の「人」を当てる場合が多く見られる。「だれか」と「だれ」という不定代名詞と疑問代名詞を当てることで、もっと客観的に事実を述べている感じがもたらせる。(10)と(11)の「アイツ」というのは、口語的で軽い表現であるため、口語の文脈には似合う。例えば、(11)は人を傷つけても気づかない人のことを責めているように見え、「アイツ」という語の程度はそれに程よく似合う。

表 2(1)(I) 親文字「女」のルビごとの頻度と歌詞例

「女」が親	ルビ	頻度	歌詞例
-------	----	----	-----



文字	ひと/ヒト	150	(1)「大切にしよう」って「守りたくなる」 って思わせるよーな女になってやろう！ (「NO you! NO life! NO...××?」) (2)にどとあの女ほど愛せないだろ（「カル ムリ」） (3)あたしを捨てて他の女を愛したくせに (「今さらジロー」） (4)太陽と月を心に宿して微笑む女よ（「太 陽と月を抱く女」）
	こ/コ	11	(5)次の花あの女どうかな（「高値の花」） (6)あの女のそばで（「川の流れを抱いて眠 りたい」） (7)もっとあの女しないことしてほしい (「Give me!～哀・してる～」）
	やつ	8	(8)俺のこの胸すがる女（「花も嵐も」） (9)花の翳りに切なく浮かぶ女（「やぐるま 岬」） (10)薄情な女（「やまねこ」）
	アイツ	2	(11)女と出逢ったバスのロータリー（「大 河の一滴」）
	こい	2	(12)女はメリーゴーランド（「恋はメリーゴ ーランド」）
	だれか	2	(13)そんな夜は女の胸で夢を見るがいい (「少しだけ悲しんで」） (14)大阪に雨が降れば女が泣いているよ (「大阪に雨が降れば」）
	もの	2	(15)もし男（かれ）がいたら 誰かの女なら 思わず引き寄せて（「Dream Girl」） (16)今はあなただけの女とすべて開くその 背中（「瞬間を止めて」）
	あのこ	1	(17)みんなあの女に上げちゃいなさい（「赤 いエプロン」）
	おまえ	1	(18)女は哀しい嘘つきさ（「抱きしめてジル バ～Careless Whisper～」）

「女」の最も普通に多く見られるルビは「人」である。(1)～(4)の例はルビを当てるこ
とで、女という性別の区別を軽減してしまうのである。(5)～(7)及び(17)はいわば女に「子」
を当てる例であり、あの子という響きもよく、親しさを感じさせるルビにより、歌詞に歌
われているのは親切で可愛いお嬢さんの感じがあふれた。(8)～(10)の感情が(5)～(7)と(17)
とは全く正反対である。「やつ」というルビは軽蔑な言い方で、「女」に当てると、(10)

の「薄情」のような言葉も増して、一層女性を軽蔑することになっている。(11)のルビの「アイツ」は場合によって違う感情を表すことができるが、ここでは女の人と出会った頃のことを思い出し、思わず親しい呼称を使ったのではなかろう。

比喩のルビには(12)の「こい」がある。「女」を「恋」と喩えたのはその一例である。歌詞の中の「女」に「こい」をつけば、曲名の「恋はメリーゴーランド」と同じようになった。これは作詞家が仕掛けた呼応である。恋している女がメリーゴーランドに乗っているような幸せな顔とシーンが想像してたまらないのであろう。

(13)と(14)の「だれか」という不定の人称代名詞は、それぞれ「誰の胸で夢を見るか」と「誰が泣いているか」という問題の答えが不確定だという意味をしている。両者とも、未知のことに対して期待や推測する気持ちが表されている。

(15)と(16)では、女をモノ化した。女性軽視か、仲がいいからわざとそうしたのか、文脈によって違う読み取り方がある。

(18)の「お前」というすでに不尊敬の呼称の枠に入れられた言葉が、明らかに女を罵る意味を伝達している。

簡単そうに見える「女」という一文字の語には、当て字を用いてこれほど遊べることに対しては、驚嘆の言葉が絶えないのであろう。

表 2(1)(m) 親文字「季節」のルビごとの頻度と歌詞例

	ルビ	頻度	歌詞例
	とき/トキ	130	(1) だけど変わらずにこの季節を待ちわびてるオレがいる（「メリグリ」） (2) どんな季節でも願うよ（「My will」） (3) もうすぐ季節が流れ（「思い出につつまれて」） (4) 胸を焦がした季節を思い出せるように（「時を渡る魔法」）
「季節」が親文字	シーズン	7	(5) 変わりだした季節（「Because of you」） (6) ふたりの蒼い季節（「恋人達のペイヴメント」） (7) 第三章 奇跡の季節（「ぶっちぬき LOVE TRIGGER」） (8) ほら楽しくてどこまでも行こう あたらしい季節（「ユメ語るよりユメ歌おう」）
	あなた	3	(9) 置き去りにする季節は華麗なる外道（「華麗なる外道」）
	じかん	2	(10) こうして少しずつ変わってゆく季節を（「寺岡呼人」）

続き 表 2(1)(m)

ルビ

頻度

歌詞例文

「季節」が 親文字	なつ	2	(11)振り向く隣にあなたがいる季節 (「SUMMER PLANET No.1」) (12)帰れない季節から 泣きたい気持ちが溢れる (「STRANGE PARADISE」)
	メロディ	2	(13) 次の季節高まる (「夏の終わりのクレッシェンド」)
	なみだ	1	(14)私の季節聞かせても (「Return To My Love」)
	ころ	1	(15)空が過ぎ通る季節 (「12時ちょうどのメッセージ」)
	つき	1	(16)思い焦がれる季節が行く (「ひとり安曇野」)

「季節」に「時」を当てる場合が最も多い。季節は一種の時の区切り方のためだと思われる。(5)~(8)は外来語の「シーズン」を当てており、前後の文脈には英語や外来語が多いという特徴がある。(9)は特別で、第二人称代名詞を当て、「季節」が置き去りにしたことと、「あなた」が置き去りにしたことを、何かの共通点で作詞家によって結び付けられている。

他に時間といった意味を表す言葉には(10)の「じかん」がある。季節の流れと時間の流れはまるで同じペースで進んでいった。

(11)と(12)の例文では、具体的にどの季節なのかをルビの「なつ」で明示している。その「なつ」が、特に過去の大事な思い出を寄せているのではないだろうか。

さらに、「季節」を「メロディ」と比喻した例は、(13)のように一つある。季節が変わっていくと共に、その季節に流すメロディも季節のペースに合わせて、高まったりするようになる。この比喻により、季節というもともと概念性の言葉が、耳でならず綺麗なメロディになり、そのイメージも想像しやすくなった。さらに、「なみだ」や「つき」といった言葉も比喻表現として使われている。

表 2(1)(n) 親文字「季節」のルビごとの頻度と歌詞例

	ルビ	頻度	歌詞例
「真実」が 親文字	ほんとう/ホント/ほんとう/ホントウ	81	(1)小さな声で 真実を願う (「Coloveration ~ the spirit of love~」) (2)剥き出しが傷つく事を真実は望んでるかもしれない (「逆行×礼賛」) (3)真実の自分を探すんだ (「HOLD YOUR LAST CHANCE」)
			続き 表 2(1)(n)
	ルビ	頻度	歌詞例



まこと	15	(4)愛の真実 恋の嘆き（「麗人麗歌」） (5)嘘が七分で 真実が三分（「しぐれ坂」） (6)真実の心が騒ぎ出す（「おとこ道」） (7)其れも真実なり（「はいはい」）	
こたえ/コタエ	10	(8)本当の真実はきっと もう誰も知ることはない（「Endless Song」）	
えいえん	6	(11)たとえ禁じられた愛でも 「真実」になるのさ！（「溺愛 X」）	
わたし	5	(12)どうか真実を見て（「蜜月レクイエム」）	
なか	4	(13)いつか乾いて キミの真実 ずっと生き続けたい（「冷たい太陽」）	
リアル	3	(14)見てる光景だけが真実よ（「Pink Champagne」）	
ヴェリテ	2	(15)語るは秘密の愛と真実（「un secret」）	
こと	2	(16)想像つかない真実 ばかりだろう（「ウィーキャン！」） (17)その真実を僕に気づかれた（「非情階段」）	
「真実」 が親文字	トゥトゥルー	2	(18)真実真実真実真実 鎮魂歌（ルラル）（「ある鎮魂歌」）
の	2	(19)いつから君の言葉を受け止められない真実と（「天秤～強がりな私×弱がりな君～」）	
まみ	1	(20)この胸にある真実たち（「GIRAFFE BLUES～Kaname Solo Requiem～」）	
もの	1	(21)ちっちゃいと オトナに もう 見えな い真実見えるよ（「ナゾが僕らを呼んでいる ～少年探偵団のテーマ～」）	
いま	1	(22)さあ心の目見開いて しかと真実を見極 めろ！（「GO!!!」）	
からだ	1	(23)ともに願いを持ち 真実を求めた（「そし て僕は、更なる旅路を求めて」）	
さき	1	(24)よきには真実が見えなくて（「さわやかな 君の気持ち」）	
まごころ	1	(25)千台川の水にもらった真実一つ（「雄松 伝」）	

「真実」のルビには、漢語や和語、外来語があり、名詞や代名詞、準体言もある。(1)～(3)のように、本当のことという意味を持つ「真実」は色々な文脈で「本当」に当てられ、本当の真実という二重の意味を持たせることにより、確かさが一層強まる。

(4)～(7)で、「真実」に「まこと」と当てた曲のほとんどは年代感のあった曲、または古風な言い方をする曲である。

(8)～(10)では、「真実」を問題の「答え」に喩え、つまり、真実を見抜くことが問題を解けることである。歌詞を通じて真実を伝えることが聴者とのインタラクションとなり、ビビッド的な効果もたらされる。

(11)のルビがもたらした比喩により、真実には永遠に続き、消滅せぬという属性がつけられてきた。

(12)は、「真実」に第一人称代名詞「わたし」を当てており、歌の主人公が自分のことを見て欲しい、本当だと信じて欲しい、という真の願望を伝えている。

外見が人を騙せても、人間の「なか」の心がおそらく騙せないのであろう。(16)は、「真実」と「なか」の結合により、相手の心を理解しようとする思いを表している。

(15)はフランス語の曲名で、フランス語での真実という意味を持つ語をルビにしている。外国語の新鮮感が感じられる。

(16)と(17)、(21)及び(19)は、形式名詞の「こと」、「もの」と準体言の「の」を用い、歌詞としての歌いやすさや流暢さが保証されている。

(22)と(24)は、真実を抽象的なものと喩え、感じられぬ、または触られぬ属性を真実に与えた。真実が「今」だったり、「先」だったり、豊富な意味を作家によって付与されている。目の前のことを信じ込んだり、未来のことを期待したりする気持ちがわかってきた。

上記の 15 語の親文字とそのルビから見ると、レトリック、すなわち修辞技法の多用と多様性がはっきりしており、特に修辞技法が当て字とは緊密な関係を持っていることがわかった。従来、歌詞の中によく使われた修辞法と言え、比喩、比擬、反復、体言止め、省略、誇張、列叙、対照（黄, 2012）等があるが、歌詞の当て字にも修辞法が使われている様子が見える。上記の当て字を例として、当て字に使われている修辞法の整理を表 3(2)に試みた。

表 2(2) 頻度トップ 15 の当て字に見られる修辞法

修辞法	歌詞例文	親文字	ルビ	効果
比喩	ぬくもりを永遠と 読んでもいいです か（「春が来た」）	永遠	あい	例文自体が当て字のことを言っている。例文より、「ぬくもり」と書いて、「永遠」と読ませる当て字が読み取れる。同時に、「永遠」に「あい」を当てる二重の当て字になった。春が来て、季節の温もりが永遠の愛のように続くイメージ

修辞法	歌詞例文	親文字	ルビ	効果
	拗れた運命が選んだ小指（「un secret」）	運命	いと	運命が糸のように細くて弱いイメージ 「糸」と「拗れる」は縁語だと言える
	お国それぞれに読みも書きも違うそれこそがいいのひとつの地球の中（「万博ササニシキ 2016」）	地球	かま	地球を釜と喩えながら、地球の国々を様々な素材と隠喩している。釜に素材が混じり、それぞれの特徴を発揮し、一つの料理になっているというふうに、世界の国々がひとつ地球で共存し、競争し合ったり交流し合ったり、カラフルな世界に貢献しているイメージ
縁語	おとぎ話さと冷めた瞳で（「～infinity～∞」）	瞳	まなざし	瞳から冷たい視線が差し出すイメージ
	過去も現在も未来も全て重ねて（「最後の恋にさよなら」）	現在	きょう	「過去」に「きのう」を、「現在」に「きょう」、「未来」に「あした」を当てている。漢語できのう、きょうとあしたという言葉に等しい語にそれらをそれぞれ当てるということで、漢語と和語が繋がるようになった
	振り向く隣にあなたがいる季節（「SUMMER PLANET No.1」）	季節	なつ	具体的にどの季節なのかをルビの「なつ」で明示した。その「なつ」が、過去の大事な思い出を寄せているのではなからう
同義	力だけじゃ Can't take 世界睨んだ「瞳」（「不滅のインフェルノ」）	瞳	Eye	表現の仕方が多様になる 英語による新鮮感が入ってくる

続き 表 2(2)

修辞法	歌詞例文	親文字	ルビ	効果
同義	天永遠に動かず (「白雲の城」)	永遠	とこしえ/とこ しへ	漢語の「永遠」 が古風な「とこ しえ/とこしへ」 に当てられ、古 き良きイメー ジ
	運命が哀し(「夢 いちりん」)	運命	さだめ	漢語の言葉に 日本人には馴 染み深いさだ めという和語 を当て、親切か つ歌いやすい イメージ

表 2(2)から、歌詞の当て字には、比喻、縁語、同義が主な修辞法があることがわかった。例ごとに、修辞法の表現効果を分析した。結果的に言うと、ある語の上にその語の意味と違う語を振ることで、この語に新しい意味を持たせている。比喻により、親文字のイメージが生き生きとするようになり、人々に連想をさせる力がある。流行歌の歌詞の当て字の縁語となった親文字とルビは、関連している。縁語により、歌詞の意味が豊富になったり、深くなったり、立体的になったりできる。同義というのは、伝統的な定義でのレトリック技法ではなく、添義法にも属せず、歌詞の当て字にとってのスペシャルな修辞法である。同じ意味の語を当てるために、二つの意味が現れるというより、意味の強調になると言えよう。あるいは違う表記法や使用言語により、歌詞に新鮮感をもたらした。

4.2 品詞

表 3 に、親文字とルビの各品詞の頻度と割合を品詞ごとに示す。

表 3 親文字とルビの品詞の頻度と割合

品詞	親文字		ルビ					
	頻度	割合(%)	頻度	割合(%)				
n	12779	85.301	13595	90.748				
pro	131	0.874	411	2.743				
a	35	14929	0.234	99.653	76	14887	0.507	99.373
av	34		0.227		89		0.594	
adv	6		0.040		53		0.354	

v	188		1.255		647		4.319	
sv	1278		8.531		0		0	
int	0		0		10		0.067	
n av	473		3.157		0		0	
n adv	1		0.007		0		0	
av sv	1		0.007		0		0	
av int	2		0.013		0		0	
adv sv	1		0.007		6		0.040	
aux	0		0		4		0.027	
pre	14		0.093		0		0	
suf	0		0		1		0.07	
conj	1	15	0.007	0.100	5	17	0.033	0.113
pa	0		0		5		0.033	
ss	0		0		2		0.013	
ssaux	0		0		1		0.007	
adv aux	0		0		2		0.013	
char	27	37	0.180	0.247	0	76	0	0.507
s	4		0.027		67		0.447	
oth	6		0.040		7		0.047	
計	14981		100.00		14981		100.00	

表 3 を通じて親文字とルビの品詞ごとの頻度と割合がわかる。

親文字：

名詞の割合が最も高く、85.301%も占め、他の品詞に比べ、極めて高いと言える。次に、サ変動詞(8.531%)が比較的に大きな割合である。名詞と形容動詞という両方の品詞を持った語も多く使われているが、サ変動詞とは5%の差がある。残りの品詞のほとんどは、1%にも満たない。言葉の他、文としての親文字は4句(0.027%)しかない。さらに、親文字には、感嘆詞、助詞、接尾語、準体言などが見られていない。

ルビ：

はるかに大きい割合を占めている名詞(90.748%)に続いて、動詞(サ変動詞除き)は4.319%との二位である。次に、代名詞は3%弱を占めている。親文字と同じように、その他の品詞の割合は1%未満で、極めて少ない。また特徴的なのは67句(0.447%)の文がルビ

として使われていることだ。ルビに見られない品詞は、サ変動詞、接頭詞及び単漢字の他に、名詞と形容動詞、名詞と副詞、形容動詞とサ変動詞、形容動詞と感嘆詞との両方を持った品詞である。

表 4(1) 親文字とルビの品詞の関係(1)

	名詞	代名詞	形容詞	形容動詞	副詞	動詞	感嘆詞	格助詞	副詞＋サ変動詞	副詞＋格助詞
名詞	12269	303	20	21	29	55	5	2	4	2
代名詞	49	74			1			1		
形容詞	11		23	1						
形容動詞	3		5	16	3	5		1		
副詞				1	4					



動詞	1				1	186		
サ変動詞	843	24	1	5	9	383	4	1
感嘆詞								
格助詞								
名詞＋形容動詞	395	8	18	36		13		1
名詞＋副詞								
形容動詞＋サ変動詞							1	
形容動詞＋感嘆詞		2						
副詞＋サ変動詞	1							
接頭詞			7	7				
接続詞								
準体言助詞								
単漢字	18		2	2		5		
文	4							
その他					6			

表 4(2) 親文字とルビの品詞の関係(2)

	接尾語	接続詞	連体形	準体言	準体言助詞	文	その他
名詞	1	4	5			52	7
代名詞						6	
形容詞							
形容動詞						1	
副詞						1	
動詞							



サ変動詞	1	7
感嘆詞		
格助詞		
名詞＋形 容動詞	2	
名詞＋副 詞		
形容動詞 ＋サ変動 詞		
形容動詞 ＋感嘆詞		
副詞＋サ 変動詞		
接頭詞		
接続詞	1	
準体言助 詞		
単漢字		
文		
その他		

表 4(1)と表 4(2)から、まず、名詞の親文字に名詞のルビが (12269 対) 最も多く当てられていることがわかった。3 桁のペア数の品詞を見ると、名詞、動詞、サ変動詞、名詞と形容動詞はそれぞれ、代名詞 (303 対)、動詞 (186 対)、名詞 (843 対) と動詞 (383 対)、名詞 (395 対) を振られている。

名詞の親文字と名詞のルビの当て字ペアの特徴は、主に以下のようにまとめられる。言葉の表記法から見ると、漢語の親文字と和語のルビ、漢語の親文字とカタカナでの外来語のルビの当て字ペアが他より明らかに多い。それぞれ例をあげれば、「能力」に「ちから/チカラ」を、「現実」に「リアル」を当てる当て字ペアがある。

親文字の名詞に当てる代名詞のルビには、主に人称代名詞、指示代名詞、疑問代名詞がある。表 4(3)にまとめて示す。人、もの、場所などを意味した名詞が各種の代名詞に当てられるという特徴がわかった。

表 4(3) 名詞の親文字に当てた代名詞

代名詞の種類	例
人称代名詞 一人称、二人称、三人称（単独）	おれ、ぼく/ボク、おのれ、わたし、あたし、ウチ、あなた、きみ/キミ、おまえ/オマエ、かれ/カレ、かのじょ/カノジョ、コイツ、ソイツ、あいつ/アイツ
複数	おれたち、ボクたち、ぼくら、わたしたち、やつら
指示代名詞	ここ/ココ、こっち、そっち、そこ/ソコ、あっち
疑問代名詞	いつ、だれ、どこ、なに
不定代名詞	なにか、だれか、どこか、いつか

表 4(4) サ変動詞の語幹の親文字と名詞のルビ

歌詞例文	親文字	ルビ
確信握り締めてる（「BLUE STEEL KNIGHT」）	確信	きりふだ
この場所 この覚悟（「GROW STRONGER」）	覚悟	おもい
讚えさあ革命（「異種革命」）	革命	レボリューション
君があつたかさ感じたら完了だ！（「MISSION is ピースフル！」）	完了	こんぷりーと
そんな君に人は感動を見る（「君よ、強くなれ」）	感動	ゆめ

サ変動詞が親文字の場合、一つの例外もなく全部ルビは和語の五段動詞、一段動詞あるいはカ変動詞である。具体例をいくつか表 4(5)にまとめた。

表 4(5) サ変動詞の語幹の親文字と五段か一段かカ変動詞のルビ

歌詞例文	親文字	ルビ
明日が解答ってる（「slug and soul」）	解答（する）	わかる
何を期待いたのか（「Body Feels EXIT」）	期待（する）	まつ
偽造られたこの街に（「WORLDWIDE LOVE」）	偽造（する）	つくる

愛こそすべてー」)

深呼吸して苦笑った(「小説
の中の二人」)

苦笑(する)

わらう

東大まで一気に合格った(「
Sunshine of my heart」)

合格(する)

うかる

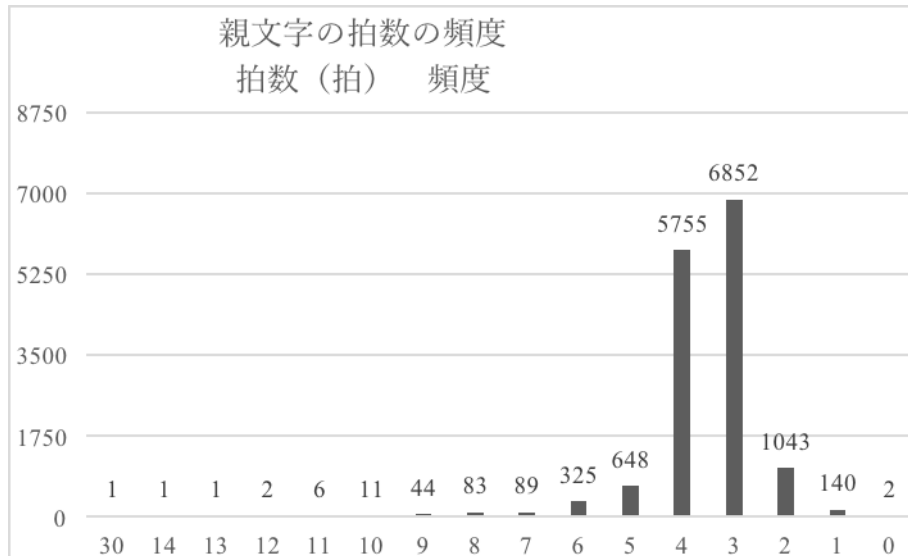
4.3 拍数

表5において、親文字とルビの拍数の関係を探るために、それぞれ拍数の平均値、並数、中央値、標準偏差、最大と最小値を算出した。

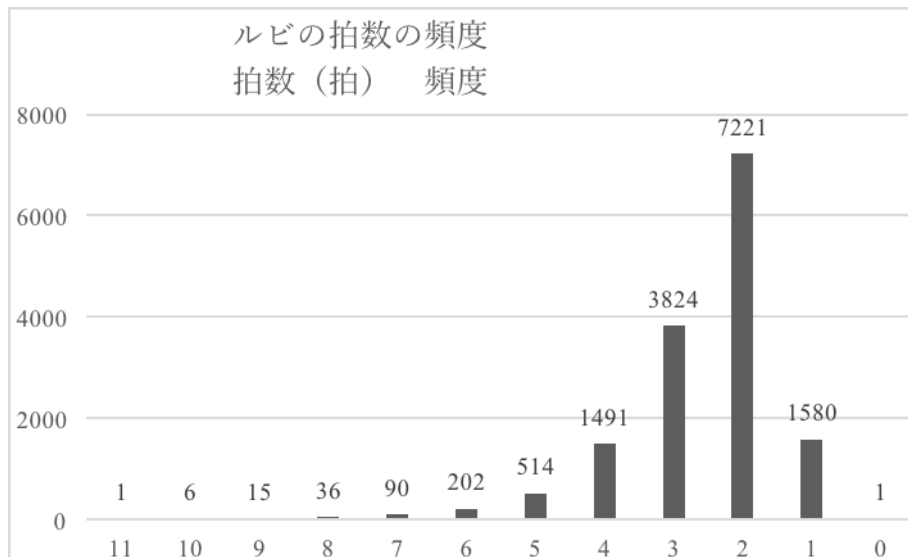
表5 親文字とルビの拍数

	平均拍数	並数	中央値	標準偏差	最大拍数	最小拍数
親文字	3.508	3	3	1.027	30	1
ルビ	2.526	2	2	1.161	11	1

親文字の平均拍数は3.508拍で、ルビより1拍多い。出現回数が最も多い拍数は、親文字は3拍で、ルビは2拍である。グラフ1とグラフ2はそれぞれ親文字とルビの拍数の統計結果を表している。最大拍数を見れば、30拍の親文字と11拍のルビはともに名詞フレーズである。最小拍数には、親文字とルビに拍数の違いがない。



グラフ 1 親文字の拍数の頻度



グラフ 2 ルビの拍数の頻度

グラフ 1 は親文字の拍数の頻度を示している。3 と 4 拍が明らかに他より高い。3 拍と 4 拍の例をそれぞれあげれば、「娘」、「未来」、「季節」、「運命」、「現在」、「真実」といった言葉がある。さらに、グラフ 2 から、2 と 3 拍のルビが大量にあることがわかった。「とき/トキ」、「とわ/トワ」、「ひと/ヒト」、「さだめ/サダメ」、「あした/アシタ」はその例である。

続いて、拍数の差ごとに親文字とルビの関係を考察した。拍数の差のほとんどは 0~7、その他 8 (1 ペア)、10 (1 ペア) と 24 (1 ペア) がある。親文字の拍数がルビより多いのが大多数で、10796 ペア、その逆は 1412 ペア、残りは親文字とルビの拍数は同じのペアである。

親文字の拍数がルビの拍数より大きい当て字ペア：

親文字の拍数がルビの拍数より大きい当て字ペアの中で、特徴が幾つかまとめられる。まず、それぞれ1ペアしかないが、24、10、8拍の差がついた当て字ペアを見てみると(表6(1))、三つとも長い名詞フレーズの親文字が短い名詞フレーズのルビになっている。24拍数差の当て字ペアでは、「隣の席のあの娘も取引先の可愛い娘ちゃんも」という長いフレーズに「ほかのだれも」と当てられている。10拍数の差がついた当て字ペアでは、「洋服店近隣出現」というフレーズの一部の「洋服店」の名前の「マルキュー」がルビとして使われていた。そして、8拍の差がある当て字ペアでは、「経験的恋愛論」というフレーズに、カタカナで「セオリー」(理論)という外来語が当てられている。

表 6(1) 24、10、8 拍数差の親文字とルビ

拍数差	親文字	ルビ
24	隣の席のあの娘も取引先の可愛い娘ちゃんも	ほかのだれも
10	洋服店近隣出現	マルキュー
8	経験的恋愛論	セオリー

7、6 拍数の 5 拍数の当て字ペア：

7、6 拍数の 5 拍数の当て字ペア(表 6(2))のほとんどは名詞フレーズ、あるいは複合名詞の親文字が名詞などのルビに当てられる形であり、ルビは上位から親文字の全体の意味を覆ったり、部分の意味を表したりする特徴がはっきりと見える。例を取り上げれば、7 拍数差の当て字ペアの親文字「不本意な現状」は「いま」というルビがついている。「いま」という二文字の現在・目の前という意味を持った言葉が「不本意な現状」という具体的な現在・目の前の状況を覆っている。また、6 拍数差の「合理的社会」の親文字に「せかい」というルビがついている例では、ルビが親文字を抽象化した結果で、それが指すものの範囲が広くなり、真の意味も深くなっている。

表 6(2) 7、6、5 拍数差の親文字とルビ

拍数差	親文字	ルビ
7	不本意な現状	いま
	東への進軍	トウ
	南への行進	ナン
	上総木内駅	えき
	物質的感覚	カラダ
	悲観的現実者達	おとなたち
6	強制的心の準備	ワンツースリー
	時空犯罪者	ヤツ

続き 表 6(2)

拍数差	親文字	ルビ
6	並行閃光	レイ
	友好的挨拶	シクヨロ
	究極攻撃魔法	アルテマン
5	年上の女	オンナ
	存在理由	いみ
	合理的社会	せ か い
	自分的規則	ルール
	珈琲店の反逆	フラペチーニョ

4 拍数差の当て字ペア：

4 拍数差の当て字ペア（表 6(3)）には、名詞の親文字が代名詞化されるものが多く見られる。例えば、「臆病者」に「ボク」を、「拳の中」に「ここ」を、「自分自身」に「きみ」を、「生命体」に「きみ」を当てる例がある。それらは具体的な場所や人間を明示せず、代名詞で示した例だ。

表 6(3) 4 拍数差の親文字とルビ

拍数差	親文字	ルビ
4	臆病者	ボク
	拳の中	ここ
	自分自身	きみ
	生命体	きみ
	連絡船	ふね

3 拍数差の当て字ペア：

3 拍数差の当て字ペア（表 6(4)）では、1 文字のルビが大量にある。4 拍の「掌」に 1 拍の「て」を当てたり、同じく 4 拍の「太陽」を 1 拍の「ひ」で意味したりするのである。名詞の他に、準体言や準体言助詞としての「の」も数度ルビとして姿を見せた。

表 6(4) 3 拍数差の親文字とルビ

拍数差	親文字	ルビ
3	掌	て
	太陽	ひ
	身体	み
	方法	て
	援助金	かね
	推進力	チカラ
	至高の時間	イネムリ
	真実	の
	失恋	の
物語	ゆめ	

2 拍数差の当て字ペア：

2 拍数差の当て字ペア（表 6(5)）には、親文字「瞳」とルビ「め/メ」、「娘」と「こ/コ」、「永遠」と「とわ/トワ」、「現在」と「いま」及び「瞬間」と「とき/トキ」とのペアが非常に大きな割合を占めている。

フレーズが少なくなると同時に、2 文字の漢語の親文字が多数現れた。例えば、「原石」や「幻影」、「接吻」、「表情」、「人生」、「青春」などある。その中、「原石」に石の「せき」を当て、「幻影」に影の「かげ」を当てるというふうに、親文字の一部がルビとなった場合があり、「接吻」に「キス」を、「円舞曲」に「ワルツ」を当てるというふうに、親文字がルビとは同義語である場合もあり、さらに「人生」に「みち」を、「青春」に「はる」を当てるというレトリック的（主に比喻）なイメージの当て字ペアもたくさん出てきた。五十嵐と中村（2007）があげた概念でいうと、「添義法」なのである。

表 6(5) 2 拍数差の親文字とルビ

拍数差	親文字	ルビ
2	瞳	め/メ
	現在	いま
	原石	せき
	幻影	かげ
	接吻	キス
	円舞曲	ワルツ

続き 表 6(5)

拍数	親文字	ルビ
2	人生	みち
	青春	はる

1 拍数差の当て字ペア：

1 拍数差の当て字ペア（表 6(6)）は、前述した 2 拍数差の当て字ペアとはほとんどの特徴を共有している。例えば、「時間」と「とき/トキ」のペアなどがある。その他、「希望」に「ゆめ」を、「銀河」に「ほし」を、「太陽」に「ひかり」を当てるような比喩的や換喩的な使い方も見える。

表 6(6) 1 拍数差の親文字とルビ

拍数差	親文字	ルビ
1	時間	とき/トキ
	希望	ゆめ
	銀河	ほし
	永遠	ずっと
	21 世紀	いま
	努力	ゆめ
	花粉	たね
	景色	ゆめ
	言葉	こえ
	事件	ヤマ
	未来	そら
	涙	ほし
	生命	メロディー
	太陽	ひかり
	地球、都会、世界、西部、心	ここ/ココ
	生活	くらし

0 拍数差の当て字ペア：

0 拍数差の当て字ペア (表 6(7)) は同じ拍数で同義や縁語などの関係を持った親文字とルビが多く見られる。例えば、「破片」と「かけら/カケラ」、「別離」と「わかれ」、「未来」と「あした」などがある。

表 6(7) 0 拍数差の親文字とルビ

拍数差	親文字	ルビ
0	破片	かけら/カケラ
	別離	わかれ
	未来	あした
	魔力	ちから
	古典的	クラシカル
	愛	らぶ
	過去	きず
	前	さき
	天	そら
	映画	シネマ
	心	ハート

ルビの拍数が親文字より多い当て字ペア：

ルビの拍数が親文字より多い場合 (表 6(8)) が全体の 10% も占めていないが、いくつかの特徴が見える。漢語の親文字と和語のルビの当て字ペアが大勢である。例えば、2 拍の「意志」に 3 拍の「おもい」や「ころころ」、「ちから」を当てたり、「過去」に「むかし」や「きのう」を当てたり、「旗」に「フラッグ」を当てたりである。その他、外来語の当て字が多くあることも一つの特徴と言える。例として、「童話」に「メルヘン」を、「経験」に「エクリペリエンス」を当てる例があげられる。比喩的な当て字ペアも少なくない。例えば、親文字の「人生」とルビの「ものがたり」・「ストーリー」のような当て字ペアなどがある。これらも「添義法」に属している。

表 6(8) ルビの拍数が親文字より多い当て字ペア

拍数差	親文字	ルビ
マイナス	意志	おもい/ころころ/ちから
	過去	むかし/きのう
	旗	フラッグ
	童話	メルヘン

続き 表 6(8)

拍数差	経験	エクリペリエンス
マイナス	人生	ものがたり/ストーリー/ザ・ステージ
	夢想家	ドリーマー
	目	ひとみ
	音	メロディー
	罨	トラップ
	順位	ランキング

4.4 表記法と使用言語

表 7(1) 親文字とルビに見られる表記法

表記法の種類(頻度により排列)		使用言語
親文字	漢字、カタカナ、ひらがな、アルファベット、数字、ローマ字 またはそれらの組合	主に日本語
ルビ	ひらがな、カタカナ、アルファベット、ローマ字、漢字、符号	日本語、英語、フランス語、ドイツ語、サンスクリット語、アラビア語、スペイン語、ロシア語、ラテン語、ギリシア語、オランダ語、アイヌ語、アイルランド語

日本語の歌といっても、表記法や使用言語が様々である。表 6 は本研究で収集した当て字の表記法と使用言語である。親文字には、漢字、カタカナやひらがなは無論、アルファベット、数字、ローマ字もある。同じく、ルビにも色々な表記法がある。

本研究では日本語の歌詞しか対象としていないため、親文字の使用言語は日本語に限っているが、ルビに使った言語は極めて豊富(13種類)である。直接にその言語の言葉で書いてあるものがあり、その場限りカタカナで日本語化されたものもある。例文をいくつか取り出し、表 7(2)に示す。

表 7(2) ルビに見られる使用言語とその例

使用言語	ルビ	親文字
英語	I York Judge	愛欲審判
	Right now!	今
	ストレイドッグス	迷い犬達
	レット イット ビー	あるがままに
フランス語	Distino	運命
	Baiser	接吻
	ソレイユ	太陽
ドイツ語	Schlehit Melodie	x 旋律
	ジィンク	凱歌
	Keuschheit	ゼーレ
ロシア語	シュトゥルム	疾風
アイヌ語	コタン	部落
アイルランド語	ギアス	誓約
アラビア語	ジハード	聖戦
イタリア語	ロンド	円舞
	Thanks Festa	感謝祭
	ディーヴァ	女神
スペイン語	ドン	首領
	マッチョ	酋長
	コラソン	心
オランダ語	えげれす	英
ギリシア語	イデア	概念
	エロス	女神
	カルマ	業
サンスクリット語	カルマ	業
ヘブライ語	メシア	救世主
ラテン語	プラタナス	鈴懸
	Vita	人生

4.5 作詞家の性別

作詞家の性別によって、当て字の使用頻度に異なりが見えるかを調べるために、表 8 には、作詞家の生理的な性別の延べ人数と異なり人数を統計し、その上、性別別の当て字の使用頻度を計算した。m、f、g と null はそれぞれ、男性、女性、グループ（男女混じり）、性別が確定できない、を指す。

表 8 作詞家の生理性別別の頻度と人数

性別	延べ人数	異なり人数/グループ数 (g & null の場合)	当て字の使用頻度
m	9202	1614	5.701
f	4592	882	5.206
g & null	1186	518	null

トランスジェンダーの作詞家もいるが、より便利に情報の確認と入手ができる生理性別を調べた。実際、トランスジェンダーの作詞家は本研究で一人のみいる。

表 8 から、対象外とされたグループや男女混在の場合などを除外した後、男性作詞家の異なり人数は 1614 人で、女性作詞家の二倍である。また、当て字の使用頻度を比べると、男性は 5.701、すなわち、一人の男性作詞家は平均 5.701 個の当て字を使用し、女性の方は、やや低く、5.206 個である。これについて大きな違いが見られない。

4.6 リリース年代

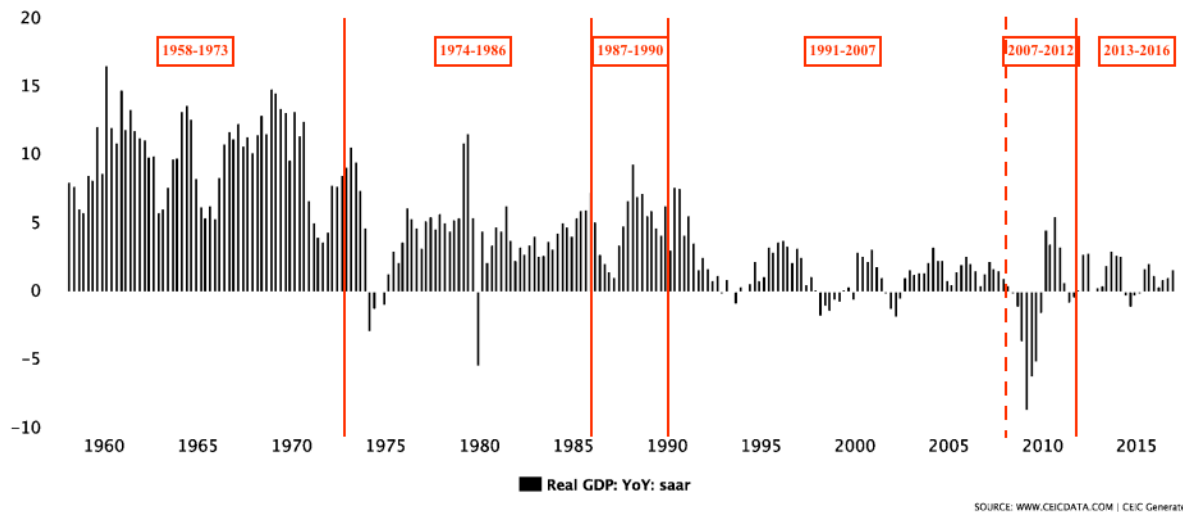
表 9 で、当て字を含む流行歌のリリース年代及びその年代の曲数と当て字数を整理した。年代の区分は日本社会の経済状況を参考にして行った。主に、1954 年～1973 年「高度経済成長期」、1974 年～1986 年「安定成長期」、1987 年～1990 年「バブル景気（バブル経済）」、1991 年～2012 年「バブル崩壊・世界金融危機」及び 2013 年～2017 年「アベノミクス」という五つの経済時代がある。年代ごとに当て字の豊かさを考察していく。語彙の豊かさを指す指標である TTR (Type-Token Ratio) を計算する。当て字の豊かさは、非重複当て字が当て字延べ数にどのくらいの割合を占めることを参考に考察した。TTR は「異なり語数(k)÷延べ語数(n)」で求められ、TTR が大きいほど語彙が豊富だということを意味する（富永, 2015）。よって、当て字の豊かさは（異なり当て字数÷延べ当て字数）で計算できる。

表 9 年代別の当て字の豊かさ

年代	年代名称	延べ当て字数	異なり当て字数	当て字の豊かさ (TTR 値)
1954～1973	高度経済成長期	57	15	0.263
1974～1986	安定成長期	572	184	0.322
1987～1990	バブル景気	306	133	0.435
1991～2007～ 2012	バブル崩壊・世界金融危機	8186	2222	0.271
2013～2017	アベノミクス	6035	2410	0.399

表 9 では、当て字の豊かさは時代の流れと共に変わっていることが明らかである。高度経済成長期より、安定成長期を始め、バブル景気にかけて、当て字の豊かさは増加の傾向であり、0.263 より 0.06 ポイントを上昇し、0.322 に達した。1991 年にバブル崩壊後、世界金融危機の波にもさらされ、当て字の豊かさは大下落し、0.16 ポイントも落ち、0.271 という低値となった。2013 年からアベノミクスの実行に伴い、日本経済には幅小さく回復が見え始め、その後の時期に当て字の豊かさも上がり、0.400 弱という高い数値に至った。

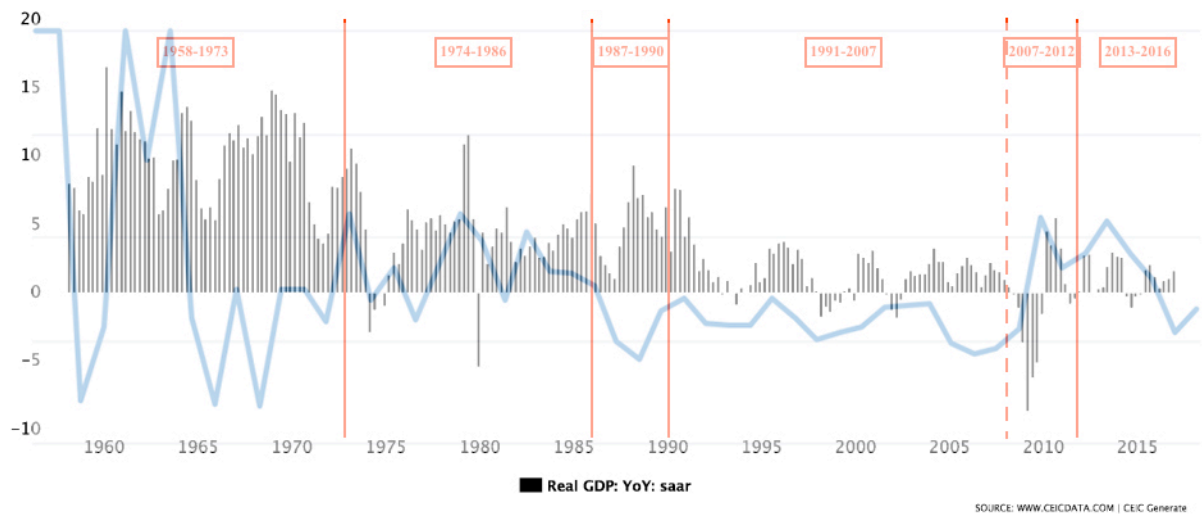
グラフ 3 1958 年 3 月より 2016 年 12 月にかけての日本の実質 GDP 成長率^[7]



グラフ 3 は 1958 年 3 月より 2016 年 12 月にかけての日本の実質 GDP 成長率を示したものだ。1958 年～1990 年日本全体の社会経済状況は良好だと言え、1991 年のバブル崩壊は日本の実質 GDP 成長率に巨大な悪影響を与えた。その後、世界金融危機の発端である 2007 年を始め、連続 4、5 年間日本の経済に強く打撃し、実質 GDP 成長率が長い期間マイナスとなっていた。2012 年末 2013 年始めに実施され始めたアベノミクスの下で、日本の実質 GDP 成長率に回復の勢いが見えた。

[7] <https://www.ceicdata.com/ja/indicator/japan/real-gdp-growth> 2017.5.15 アクセス

グラフ 4 1958 年より 2016 年にかけての日本の実質 GDP 成長率と当て字豊かさの関係



当て字の豊かさと日本社会経済状況の間に関係の有無またはどれくらい関係しているのかを見るために、表 9 の数値とグラフ 3 を結合させ、グラフ 4 を製作した。グラフ 4 の縦軸の「0」は日本の実質 GDP 成長率が 0 ということを意味していると同時に、当て字の豊かさの平均値でもある。

図 12 を通じて当て字の豊かさの変化と日本社会経済状況の発展との関係がわかる。当て字の豊かさは凡そ経済状況順調の 1961 年から 1963 年間にピークとなり、1960 年代末に底を打った。1974 年からの安定成長期に入り、当て字の豊かさもほとんど「0」の上であり、すなわち、当て字の豊かさは平均値を超えている。続いて、1987 年～1990 年のバブル景気は当て字の豊かさに積極的な影響を与えていなかったようである。それは、図 5 でこの時期の当て字の豊かさの傾向が実質 GDP 成長率の傾向と全く正反対であることからわかった。しかも、バブル経済期、当て字の豊かさは一度（1987 年～1988 年）極めて低い数値に落ちたことがある。それから、日本経済が「失われた 20 年」と呼ばれる経済低迷の 20 年に入ると同時に、当て字の豊かさも連続十数年も「低迷」の様子を見せていた。2007 年～2012 年間、一度実質 GDP 成長率のリバウンドと同じ時期に当て字の豊かさも小ピークに達成した。さらに、「アベノミクス」時代の当て字の豊かさは減少しつつあるが、平均値より大きい時が比較的が多かった。最後のところで、当て字の豊かさは再び上昇する傾向を示している。

4.7 本章のまとめ

本章は当て字のデータを品詞、修辞法、拍数、出現回数や、メタデータの作詞家の性別と歌のリリース年代の経済状況の方面から分析し、特徴と傾向をまとめた。当て字は品詞、拍数、出現回数と意味関係にはそれぞれ明らかな特徴がある。作詞家の性別及び経済状況は、当て字の使用や豊かさに影響していることもわかった。

第 5 章 当て字に関する考察

第5章で、前章で入手した当て字のデータをに基づき、以下の当て字の言葉の特徴、レトリック技法、歌のメタデータ、当て字を使用した可能な原因、または歴史的観点から見た当て字、といった点からディスカッションを試みる。

5.1 当て字の言葉の特徴とレトリック効果

品詞：

数多くの品詞の中で、名詞の性質を持つことばが、親文字とルビに最も多く使用されていることがわかった。

当て字ペアでは、名詞が最も多く名詞と代名詞に当てられる。サ変動詞が名詞と五段動詞及び一段動詞に当てられる例が最も多い。この両方ともに共通している大きな特徴は、漢語の親文字と和語のルビがペアになる例が多いということである。歴史の長い和語は、「所詮輸入品」のやや堅苦しい漢語に比べ、基本現代流行歌の歌詞にやや親しい響きをもたらす効果があり、日本人にとっては耳で聞いてすぐわかる成分である。同時に、見た目ではやや格好良い漢語が歌詞に書かれることが適切だと日本人が思っているのであろう。また、代名詞のルビを名詞の親文字につけた時、親文字の具体的に指した対象がぼやけるようになる。

拍数：

親文字はルビより、平均拍数、並数（最も多く現れた拍数のこと）及び中央値（全体の中央となった拍数）がそれぞれ1拍多い。それは親文字には、比較的拍数の多い和語が多数存在しているためなのではないかと考えられる。

歌詞をリズムにより良く合わせるために、漢語か和語かを選択する。多数の場合は、歌詞の漢語に拍数の少ない和語を当てるが、逆の場合もある。例えば、「メロディー」に「音」を当てる時があれば、「音」に「メロディー」を当てる時もある；「ストーリー」に「ゆめ」を当てる時があれば、「ゆめ」に「story」を当てる時もある；さらに、常用当て字とでも言えそうな「瞳」に「め」を当てる当て字があれば、逆の「目」に「ひとみ」を当てる当て字もないわけではない。元々は曲ごとのリズムまで分析すべきであるが、手段や時間の制限があり、筆者の耳感覚と当て字ペアの結果を利用し、上記のような結論に至った。

表記法と使用言語：

当て字の言葉には豊富な表記法と使用言語が見られる。主に、英語、フランス語、ドイツ語、サンスクリット語、アラビア語、スペイン語、ロシア語、ラテン語、ギリシア語、オランダ語、アイヌ語、アイルランド語などといった言語が見られる。それを当て字の特徴と言うよりも、日本語の歌の特徴あるいは日本語までの特徴と言ってもよからう。多様な表記法と使用言語は、歌詞と歌詞の行間を鮮やかにしている。

修辞法：

修辞法には、主に比喻、縁語及び同義がある。比喻により、親文字のイメージが生き生きとするようになり、人々の連想を引いてしまう。縁語により、歌詞の意味が豊富になったり、深刻になったり、立体になったりする。同義により、同じ意味の語を当てるので、

意味の強調になれる。違う表記法や使用言語を使うことで、歌詞は新鮮感が増すのであろう。上述した意味で、歌詞の当て字には、所謂添義法が大いに力を発揮している。

5.2 当て字のメタデータ

作詞家の性別：

当て字の使用頻度は作詞家の生理性別に影響されることがほとんどないようである。細かく当て字ごとに性別による差の分析には至っていないが、これを今後の研究課題にしたい。

社会経済状況：

当て字の豊かさは時代とともに変わっている。日本の社会経済の状況を日本の実質GDP成長率で表すと、当て字の豊かさは社会経済と正比例の関係にある。経済発展に伴い、一般市民（無論作詞家も含んでいる）の娯楽対象の一つである歌の歌詞の当て字も豊富の方向に発展していく。経済が下落すると、当て字の豊かさもしっかりと落ちる。

経済が未発達の際、娯楽というのは生きることを優先した一般市民の生活から遠いもので、階級の高い人間しか楽しめる余裕がなかった。経済発展と共に、音楽を始め、オペラやミュージカルなどが一般民衆の目に入るようになった。文芸や娯楽産物は当時代の人間の趣味や趣向などに合わせたものこそ、人間の視線や関心を引くのであろう。経済が発展するに伴い、人間はより多様なライフスタイルや、豊富な娯楽を求めるに違いない。そういう流れで、歌詞にだんだん当て字が登場し、聴者の皆に喜ばせたり、驚かせたりするための違う形で現すようになったのではないだろうか。経済が相対的落ち込む際、人々の多様性に関してもある程度追求しなくなる。多様性を吟味する余裕が生活に奔走する辛さに奪われたのではなかろう。よって、経済状況と当て字の多様性とは正比例の関係を示している。

5.3 当て字の共通性と個性

当て字の使用には、共通性と個性が同居している。本研究には15ペアの当て字ペアが当て字延べ数の凡そ半分を占めていることが、当て字使用の共通性を証明できる。数多くの作詞家に愛用される当て字ペアが限られているのである。同時に、作詞家は自分なりの、自分しか使っていない当て字ペアをも創作している。このような当て字ペアは普通その場のために作られ、その歌限定なものなのである。本研究でも大量の低頻度の「少数派」当て字を分析し、ユニックなものこそある面白みを吟味することができた。

5.4 当て字の使用の可能な原因

以上観察を通じてまとめた歌詞の当て字の特徴に基づき、「なぜここで、この当て字を使用したのか」という問題の可能な解答を探ってみようと思う。

まず、拍数的理由。ルビの平均拍数、拍数並数及び拍数中央値は、親文字より1拍短いという統計結果から、同じあるいは近い意味を表すことを前提にし、リズム合わせのために、比較的拍数が少ないルビを当てたのではないかと推測できる。そのうえ、日本語の歌の一種の和歌を考えると、和歌ならではの「5・7・5・7・7」という特別に決まった拍数の制限は、今になっても現代日本の歌に影響し続けている可能性があるのではないであ

ろうか。残念ながら本研究では時間や筆者の能力の制限があるため、扱えなかったが、今後の課題としたい。

次に、修辭的理由。歌は芸術作品であり、その歌詞も文学作品と視すべきである。作詞家は文としての歌詞のみに修辭法を使うことに満足できず、歌詞の言葉まで大胆に修辭の魔法をかけている。当て字を利用することで、歌詞に違うニュアンスを持たせることができる。

最後に、音聲的理由。歌詞はあくまでも歌手によって歌いだされるものであるため、その音聲的効果あるいは音響が無論良ければ良いほど良からう。ルビに和語が多用されることから、和語にしかない日本語の古き良き風情や耳への親しさを表すために、和語に好きが偏っているのではないかと考えられる。

言うまでもなく、上述した可能の原因は全部の当て字に当てはめることはできなく、本研究で得た当て字のデータの特徴に基づいてまとめた共通性である。当て字の使用の理由にも色とりどりの個性が溢れるはずである。

5.5 歴史的観点から見た現代歌詞の当て字

「当て字」という言い方とそれが指した日本語に特有な言語現象は、決して現代生まれではない。今日の流行歌に多用されている当て字という形は、実際、千年前よりも追跡できる。

第2章で説明したところで、従来の当て字の特徴は、和語に表音文字としてのバラバラな漢字をつけることと、表音の漢字から成り立った言葉も和語と同じ意味にされることである。この二点では、現代歌詞の当て字は大きく変わった。第一、親文字にルビを当てることのみならず、同時に表音のルビに表記の親文字を当てるということもある。歌の聴者にとって、歌詞（ルビ）を聴くことが歌詞（親文字）を見ることより先に起こったため、歌詞を見た後親文字とルビの関係を吟味することより、歌詞の当て字を「ルビに親文字をつけながら、親文字にルビをつける」という芸術性のある言葉現象とみなすべきなのではないかとの考えに至った。第二、歌詞の当て字は、意味関係にある親文字とルビのペアが多い。つまり、従来のランダムな当て方で生まれた「音聲的当て字」ではなく、ちゃんとした意図があった「意味的当て字」である。この点では、『万葉集』の用字法の一つである「義訓」とは共通している。さらに、昔より使われ続けた当て字は、今もう既に国語の辞書に定着し、当て字と意識されず普通に使われることが多い。しかし、現代歌詞の当て字のほとんどは若いものである。これからは、高い頻度の歌詞の当て字を始め、歌詞の当て字がだんだん国語の辞書に収録されていくのか。歌詞の当て字の今後の成り行きが楽しみなのではなからう。

修辭法から見れば、現代日本の流行歌が歴史上和歌の修辭法をある程度受け継いでいることがわかった。和歌の修辭法の「縁語」が現代流行歌にも頻繁に姿を現している。意味上、関連のある親文字とルビが共に立体性を作り出し、豊富な意味を歌詞に持たせる。この点では、和歌の縁語と大いに共通している。連想による面白みを引き出すことこそ、作詞家が当て字を使った目的である。縁語のほか、常用の修辭法として比喩が大量に使用された。比喩を使うことで、物事を生き生きと実感させる（黄, 2012）ことができる。さらに、同義という言葉の意味を強調する効果がある技法は、本研究で特別に当て字の修辭技法として認められる。よって、現代日本の流行歌の歌詞の当て字の修辭技法は、歴史長き和歌の修辭から伝承されたものでありながら、現代レトリック技法をも採用している古今を反映できる技法である。

5.6 本章のまとめ

前章で得た当て字のデータを基づき、言葉の特徴と傾向をあらためて整理した。その上、なぜ当て字を使うかの possible の理由も拍数、意味及び音声的側面からそれぞれ推測した。最後に、歌詞の当て字を従来の当て字や歴史上の義訓、添義法と比較しながら、和歌の修辞技法と照合しながら、歴史上位置付けようと試みた。

第 6 章 おわりに

現代日本の歌の歌詞に出た当て字を研究対象に、プログラミングでのクローリングの方法で UtaTen という歌詞サイトより、計 42,785 首の歌から、述べ 14,981 組の当て字ペアを抽出し、言葉の特徴と作詞家性別や社会経済状況との関係などの方面から、歌詞の当て字に対して計量分析を試みた。その結果、品詞から見れば、当て字には名詞が最も多く使われ、名詞の親文字と名詞のルビが最も大きい割合を占めていることがわかった。拍数といえば、3 拍の親文字と 2 拍のルビが主である。意味関係を見ると、当て字の言葉には同義の関係が比較的によく見られる。作詞家皆多用する当て字があり、作詞家の個性が溢れた当て字の使用もある。当て字の使用頻度は、作詞家の性別による影響が少ない。当て字の豊かさは、真の社会経済状況と似たような変化や傾向を示している。作詞家は拍数的、修辭的、音声的といった様々な理由で当て字を使用している。当て字は歌詞の狭い行間に工夫をし、日本の流行歌の歌詞にとっては大事かつ独特な存在である。歌詞には色彩をもたらし、聴者の吟味する興味を引くのであろう。歌詞の当て字は現代日本の歌カルチャーの代表産物として、従来の当て字と歴史上の義訓に受け継がれ、レトリック手法の添義法とも縁の深い様子を見せている。当て字は日本文化かつ漢字圏文化の宝物と位置付けをしても過言ではないのではなかろうか。当て字という特別な文字遊びを通じて、日本人の心への理解が深まるのではないだろうか。

無論、本研究は決して完璧なものではない。データ処理における品詞を決める際、品詞の種類にはまだ工夫できる余地がある。また、当て字の使用の理由をもっと具体例を通じ、考究してまとめることも期待できる。さらに、他種類のテキストを背景に、違うステージでの当て字表現を分析することにより、当て字の特徴や傾向などの結果の普遍性や精度が上がるのではなかろうと思われる。よって、これらを今後の課題として、続けて探していきたいと思う。

参考文献

(以下は著・編集者名の五十音順に配列する。)

日本語の文献：

- [1]五十嵐力. 『新文章講話』. <http://balloon-rhetoric.atwebpages.com/igarashi/igarashi-top.html>
2017.4.28 アクセス
- [2]伊藤雅光. (2002). 『計量言語学入門』. 東京:大修館書店.
- [3]今野真二. (2013). 振り仮名 二つの言語の架け橋. 日本語学 32(5), pp.144-156
- [4]江藤. (2013). 日本 J-POP の歌詞の当て字. (卒業論文).
- [5]大出彩, 松本文子, 金子貴昭. (2013). 流行歌から見る歌詞の年代別変化. じんもんこん
2013 論文集, 2013(4), pp.103-110.
- [6]川畑達也. (2012). BUMP OF CHICKEN の歌詞分析.
- [7]金城克哉. (2013). 槇原敬之の歌詞の数量的分析—『君が笑うとき君の胸が痛まないよ
うに』から『Heart to Heart』まで. 琉球大学欧米文化論集, 57, pp.23-42.
- [8]黄建香. (2016). 日本古典文法と古文. 上海交通大学出版社. pp.100-104
- [9]黄彩霞. (2012). 日语流行歌曲歌词语言特点研究——日语歌曲与日语教学
- [10]小林佳織, 狩野恵里奈, 鈴木崇史. (2013). 女性グループの歌詞の計量テキスト分析.
言語処理学会第 19 回年次大会発表論文集, pp.338-341.
- [11]白勢彩子. (2012). 「当て字」の現代用法について. 東京学芸大学紀要. 人文社会科学
系. I, 63, pp.103-108.
- [12]杉山いつみ. (2008). 現代流行歌における当て字の調査. (卒業論文).
- [13]鈴木直枝, 山口孝志. (2000). 流行歌の歌詞にみる言語の変遷: 過去 34 年間のヒット
曲を通して (論文編). 東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要, 31, pp.55-65.
- [14]富永愛. (2015). いきものがかり・水野良樹と山下穂尊の歌詞に関する文体的特徴分析:
計量言語学的手法による. 日本文学, 2015(111), pp.235-252.
- [15]中村明. (2007). 『日本語の文体・レトリック辞典』. 東京:東京堂出版. pp.297-298
2017.4.28 アクセス
- [16]平山千晴. (2009). ゆずの歌詞分析. 帝京日本文化論集, (16), pp.290-276.
- [17]細谷舞, 鈴木崇史. (2010). 女性シンガーソングライターの歌詞の探索的分析. じんも
んこん 2010 論文集, 2010(15), pp.195-202.

日本語の辞書：

- [18]『広辞林』第六版. (1983). 東京:三省堂出版社
- [19]『三省堂大辞林』. (ネット辞書). <http://www.weblio.jp> 2017.4.28 アクセス
- [20]『大辞泉』小学館. (ネット辞書). <https://dictionary.goo.ne.jp/jn/> 2017.5.4 アクセス
- [21]『日本国語大辞典』. (1972-1976).東京:小学館.

英語の文献：

- [22]Lewis, M. (2010). *Painting Words and Worlds*. *Columbia East Asia Review*, 3, pp.28-45.
- [23]Nyman, K. (2012). *English influence on Japanese popular music: A case study of language
contact* (Doctoral dissertation, Master's Thesis. University of Eastern Finland).

謝辞

本稿執筆にあたり、詳細なコメントと洞察に富む助言を与えて頂いた河崎みゆき先生に心より感謝致します。また、温かい励ましをいつも送り続けてくれた家族に心から感謝の意を表したいと思っております。

また、プログラム作成中、色々と支援をしてくださった姜氏、張氏、金氏、洪氏、陳氏には、感謝の言葉が付きません。

図表の目録：

図1 UtaTen のルビつきの歌詞例.....	3
表1 作詞家の性別とその表記対照表.....	11
表2(1) 頻度トップ・15 の親文字.....	12
表2(2) 頻度トップ・15 のルビ.....	13
表2(3) 頻度トップ・15 の当て字ペア.....	13-14
表2(1)(a) 親文字「娘」のルビごとの頻度と歌詞例.....	14-15
表2(1)(b) 親文字「時間」のルビごとの頻度と歌詞例.....	15
表2(1)(c) 親文字「瞳」のルビごとの頻度と歌詞例.....	16
表2(1)(d) 親文字「瞬間」のルビごとの頻度と歌詞例.....	17
表2(1)(e) 親文字「永遠」のルビごとの頻度と歌詞例.....	18
表2(1)(f) 親文字「運命」のルビごとの頻度と歌詞例.....	19-20
表2(1)(g) 親文字「理由」のルビごとの頻度と歌詞例.....	21
表2(1)(h) 親文字「現在」のルビごとの頻度と歌詞例.....	22
表2(1)(i) 親文字「地球」のルビごとの頻度と歌詞例.....	23-24
表2(1)(j) 親文字「時代」のルビごとの頻度と歌詞例.....	25
表2(1)(k) 親文字「他人」のルビごとの頻度と歌詞例.....	26
表2(1)(l) 親文字「女」のルビごとの頻度と歌詞例.....	27
表2(1)(m) 親文字「季節」のルビごとの頻度と歌詞例.....	28-29
表2(1)(n) 親文字「季節」のルビごとの頻度と歌詞例.....	29-30
表2(2) 頻度トップ15 の当て字に見られる修辞法.....	31-33
表3 親文字とルビの品詞の頻度と割合.....	34
表4(1) 親文字とルビの品詞の関係(1).....	36
表4(2) 親文字とルビの品詞の関係(2).....	37
表4(3) 名詞の親文字に当てた代名詞.....	38
表4(4) サ変動詞の語幹の親文字と名詞のルビ.....	38
表4(5) サ変動詞の語幹の親文字と五段か一段かカ変動詞のルビ.....	39
表5 親文字とルビの拍数.....	39
グラフ1 親文字の拍数の頻度.....	40
グラフ2 ルビの拍数の頻度.....	40
表6(1) 24、10、8 拍数差の親文字とルビ.....	41
表6(2) 7、6、5 拍数差の親文字とルビ.....	41-42
表6(3) 4 拍数差の親文字とルビ.....	42
表6(4) 3 拍数差の親文字とルビ.....	43
表6(5) 2 拍数差の親文字とルビ.....	43-44
表6(6) 1 拍数差の親文字とルビ.....	44
表6(7) 0 拍数差の親文字とルビ.....	45
表6(8) ルビの拍数が親文字より多い当て字ペア.....	45-46
表7(1) 親文字とルビに見られる表記法.....	46
表7(2) ルビに見られる使用言語とその例.....	47
表8 作詞家の生理性別別の頻度と人数.....	48
表9 年代別の当て字の豊かさ.....	49
グラフ3 1958年3月より2016年12月にかけての日本の実質GDP成長率.....	49
グラフ4 1958年より2016年にかけての日本の実質GDP成長率と当て字豊かさの関係.....	50